

心理・コミュニケーション学科

■入門

240001 心理・コミュニケーション概論

【到達目標】

- ・人間という生物種とその営みの特質について、「心理」「コミュニケーション」の観点から理解する。
- ・所属専攻での専門的な考究に向けて、他領域との関連を踏まえたうえで、今後4年間の学びの展望を得る。
- ・人間を科学するための基礎となる研究テーマや研究方法などについて理解する。

【概要】 人間を見つめ直し自分を発見する学科の営みの第一歩として、心理学・コミュニケーションの2つの領域のチェーンレクチャーを通して、人間の心と行動を科学する。心という捉えにくい対象をいかにして科学的に捉えるのかという理論や方法論を紹介する。それを踏まえて、心理学が明らかにしてきた人間の心の特性について概括する。また、人間は、社会の中でどのような情報をどのように発信・受信し、社会を構成する他者と関わり、共生していくのかについて、考察していく。さらに、言語、文化、宗教など、さまざまな背景をもつ他者との関わり、多文化共生社会の中で、生きる人間について、論じる。
<オムニバス方式>

240002 心理学概論

【到達目標】

- ・心理学とはどのような学問なのか、その考え方、ものの見方などを理解する。
- ・心理学の成り立ちを理解する。
- ・心理学の各領域について学び、心理学の全体像をつかむ。
- ・心理学の基本的知識を身につけ、どのような方法で研究されているのかを理解する。
- ・人の心の基本的な仕組みと働きを理解する。

【概要】 この講義では、初めて心理学に触れることになる1年次の学生を対象に、心理学の4分野を網羅的に概観し、心理学全体にわたる基本的な知識を身に付けることを目標とする。心理学の全体像をつかんだうえで、心理学の考え方やものの見方を理解することも目標とする。講義の範囲は、知覚・記憶・学習・思考・感情・動機づけ・発達・社会・知能・パーソナリティ・臨床などの領域をできるだけ広く網羅する。領域ごとに異なる研究手法についても学ぶ。

240003 コミュニケーション概論Ⅰ

【到達目標】

- ・コミュニケーションを研究する意義を理解する。
- ・コミュニケーションの基礎知識を身につける。
- ・コミュニケーション研究の各領域について学び、全体像を理解する。

【概要】 コミュニケーション研究の全体像を概観し、基本的知識を学ぶ。多様化・情報化が進む社会におけるコミュニケーションについて理解を深め、他者とメディアによって伝えられる情報の特徴、それらが自己と他者理解、人間行動、社会認識にどのように関わっているかを考える。そのための基礎的内容として、言語と非言語コミュニケーション、対人コミュニケーション、コミュニケーションと社会的認知・社会的影響、多文化社会とコミュニケーション、メディアの送り手、内容、効果、インターネットにおけるコミュニケーションなどについて学ぶ。

■卒業論文

240601 卒業論文

【到達目標】

- ・学科・専攻での学びをもとに、研究テーマおよび問題提起を設定することができる。
- ・設定した問題について資料・文献等をもとにして仮説をたてることができる。
- ・仮説を検証するための適切な研究方法（調査や実験等）を計画・実施することができる。
- ・データを分析・考察し、得られた知見を研究論文として論述することができる。

【概要】 学生が自らの知的関心に沿って研究テーマおよび問題提起を設定し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実験・実習等により検証して、明確な根拠とともに提示するという一連の営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。それまでに得た知見・能力を統合してこの営みにつなげるために発展演習において考察・議論に必要な力を養い、担当教員の個別指導と授業内外の討論を活かして各自論文執筆を進める。卒業論文提出後、複数の教員による口述試験を実施し、論文の審査を行う。

心理学専攻

■ 基盤講義

341101 知覚・認知心理学概論

【到達目標】

- ・知覚・認知心理学とはどのような学問領域なのか、その考え方、ものの見方などを理解する。
- ・知覚・認知心理学の各領域について学び、知覚・認知心理学の全体像をつかむ。
- ・知覚・認知心理学の基本的知識を身につけ、どのような方法で研究されているのかを理解する。

【概要】 この講義では、心理学を4分野に大別したうちの知覚・認知心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。講義の範囲は、感覚・知覚・認知・思考等の機序及びその障害など、知覚・認知心理学の領域をできるだけ広く網羅する。研究により明らかになった知見を体系的に身に付け、トピックごとに異なる研究手法についても学ぶ。授業で学んだ心の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。

241102 社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）

【到達目標】

- ・社会心理学とはどのような学問なのか、その考え方、ものの見方を理解する。
- ・対人関係や集団における人の意識・行動について基本的な知識を身につける。
- ・人の態度や行動に影響する要因について基本的な知識を身につける。
- ・家族・集団・文化が個人に及ぼす影響について基本的な知識を身につける。
- ・社会心理学がどのような方法で研究対象にアプローチしているか、その研究手法を理解する。

【概要】 この講義では、心理学を4分野に大別したうちの社会心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。さまざまに異なる個人が関係を結ぶことで成り立つ社会において、その構成員である個々の人間は複雑な相互作用のもとに行動している。「社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）」では、他者がいる場面での人の心理過程および態度・行動、個人間の相互作用過程、さまざまな対人関係、家族を含めた集団、文化、さらには個々人の行動の帰結として生じるマクロな現象まで幅広い領域を扱う。

241103 発達心理学概論

【到達目標】

- ・発達心理学の基本的な知識を身につける。
- ・誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について理解する。
- ・認知機能の発達および感情・社会性の発達について理解する。
- ・自己と他者の関係のあり方と心理的発達について理解する。
- ・発達障害等非定型発達についての基礎的な知識および考え方を理解する。
- ・高齢者の心理について理解する。
- ・発達心理学の研究方法を理解する。

【概要】 この講義では、心理学を4分野に大別したうちの発達心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。人間の発達とは何かを考え、発達のメカニズムおよび発達を支える社会・文化的要因も含めて検討する。生涯発達心理学の視点から、乳幼児期・児童期・青年期・老年期について学んでいく。また、対人関係の発達・自己の発達・情動発達・道徳性の発達などの社会性の発達の側面と、知覚の発達・言語発達・コミュニケーションの発達などの認知発達の側面の両面から扱う。さらに、非定型発達についての基礎も取り上げる。

241104 臨床心理学概論

【到達目標】

- ・臨床心理学の全般的・基本的な知識を身につける。
- ・臨床心理学の歴史を振り返ることで、研究・実践（臨床）面での実証科学としての心理学からの発展の経緯を理解する。
- ・臨床心理学におけるアセスメント論・心理面接論・地域援助論に関する理論・技法の要点を習得する。

【概要】 この講義では、心理学を4分野に大別したうちの臨床心理学に焦点を当て、その基本的な知見を学ぶことを目的とする。まず、臨床心理学はいかにして、悩みや心の病、人生での困難への支援という実践的な科学という側面をもちながら、現在のような研究・実践（臨床）面での発展を遂げてきたのか、歴史的に振り返る。その上で、臨床心理学の3本柱である、アセスメント論・心理面接論・地域援助論について、代表的な理論・技法を取り上げ、学生が重要なエッセンスを習得できるように講義を行う。

241105 心理学統計法 1

【到達目標】

- ・統計分析を用いた心理学研究法の意義について理解する。
- ・心理統計（記述統計、推測統計の基礎）を正しく理解する。
- ・学習した心理統計の知識を利用して、数値例を分析できる。

【概要】 心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析を学ぶ。実

証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究におけるデータの扱い方について理解することを目指す。この講義においては、心理統計の考え方について触れた後、記述統計および推測統計について、統計的な内容を実際の心理学研究に結びつけ、数値例を用いながら学んでいく。具体的には、「心理学実験演習 IA・IB」で求められるデータの扱いができるようになることを目標とする。

241106 心理学統計法 2

【到達目標】

- ・ 統計的仮説検定の考え方について理解する。
- ・ 学習した心理統計の知識を利用して、自力でデータを分析できる。
- ・ 分析結果を正しく読み取り、報告書にまとめる力をつける。

【概要】 心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析を学ぶ。実証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究におけるデータの扱い方、さらに、それを論文という形でまとめる方法について理解することを目指す。この講義においては、データ整理、統計分析の実際を学ぶ。さらに、分析結果のまとめ方、論文での結果の書き方について解説し、ルールに則って正しくかつ分かりやすく記述する力を養う。

■ 特殊講義

241201 思考心理学

【到達目標】

- ・ 高次の認知過程に関する認知心理学的研究について体系的に理解する。
- ・ 高次の認知過程に関する認知心理学的研究の方法を理解する。
- ・ 授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し、説明する力を身につける。
- ・ 高次の認知過程に関する認知心理学的研究が、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養う。

【概要】 「知覚・認知心理学概論」で学んだ認知心理学に関する基本的理解をもとに、高次の認知過程（思考、あるいはその基盤としての言語）を取り上げて解説する。研究により明らかになった知見を体系的に身に付け、トピックごとに異なる研究手法についても学ぶ。授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。

341202 知覚心理学

【到達目標】

- ・人の感覚・知覚等の機序及びその障害について体系的に理解する。
- ・知覚に関する心理物理学的研究の方法を理解する。
- ・授業で学んだ知覚の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し、説明する力を身につける。
- ・知覚に関する心理物理学的研究が、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養う。

【概要】 「知覚・認知心理学概論」の学習内容に関する基本的理解をもとに、知覚心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。感覚・知覚の機序及びその障害について学ぶとともに、領域ごとに異なる研究手法についても学ぶ。講義内容の理解を深めるために、視聴覚教材やデモンストレーションなどを利用する。授業で学んだ知覚の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。

241203 神経・生理心理学

【到達目標】

- ・脳神経系の構造及び機能、記憶・感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害の概要について理解する。
- ・神経・生理心理学的研究の方法を理解する。
- ・心と脳の関係、心と身体の関係について理解し、説明する力を身につける。
- ・神経・生理心理学的研究が、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養う。

【概要】 「知覚・認知心理学概論」で学んだ生理心理学に関する基本的理解をもとに、心と脳および身体の関係について正常・異常の両面から迫る神経・生理心理学の主要テーマについて解説する。具体的には、中枢神経系、自律神経系、内分泌系の構造及び機能、心の働き（感覚・知覚・運動・学習・記憶・感情・動機づけ）の生理学的反応の機序、高次脳機能障害・発達障害・精神疾患と脳などのトピックについて概説する。

341204 認知心理学

【到達目標】

- ・人の認知・思考等の機序及びその障害に関する認知心理学的研究および学際的研究について体系的に理解する。
- ・認知心理学的研究および学際的研究の方法を理解する。
- ・授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し、説明する力を身につける。

・認知心理学的研究および学際的研究が、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養う。

【概要】 「知覚・認知心理学概論」の学習内容に関する基本的理解をもとに、認知心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。記憶・認知の機序及びその障害について学ぶとともに、領域ごとに異なる研究手法についても学ぶ。認知科学や認知神経科学など、関連諸領域と融合した学際的な内容にも焦点を当てる。授業で学んだ認知の働きが、現実場面とどのように結びつくのかを理解し説明する力を身につけること、心理学の他の領域や他の学問とどのように関連づけられるのかを考える力を養うことも目標とする。

241205 学習・言語心理学

【到達目標】

- ・人の行動が変化する過程について理解する。
- ・言語の習得・理解における機序について理解する。
- ・学習・言語心理学の教育、福祉、臨床、職能開発などの実際場面への適用について考える力を養う。

【概要】 経験を通して人の行動が変化する過程と、その行動の変化の背後にある認知との関連が深い言語の習得における機序について理解することを目指す。具体的には、行動の変化に関しては、条件づけ、問題解決学習、技能学習、社会的学習などについて学び、言語の習得に関しては、話しことば、文学、語彙、文章の理解力や産出力、文法の獲得などについて学ぶ。学習・言語心理学の教育、福祉、臨床、職能開発などの実際場面への適用について取り扱うこともある。

241206 感情・人格心理学

【到達目標】

- ・感情に関する理論及び感情喚起の機序について理解する。
- ・感情が行動に及ぼす影響について理解する。
- ・人格の概念及び形成過程について理解する。
- ・人格の類型、特性等について説明することができる。

【概要】 感情に関する理論及び感情喚起の機序と、感情が行動に及ぼす影響についての理解、さらに、人格の概念及び形成過程、人格の類型、特性等についての理解を目指す。具体的には、感情喚起の背景にあるメカニズムや表出された感情がその後の個人間や集団間の関係性にもたらす影響などについて学び、さらに、人格形成に関与する遺伝要因と種々の環境要因や、人格の理解や記述の方法として用いられる類型論と特性論などについても学ぶ。

241207 社会心理学（個人内過程）

【到達目標】

- ・社会的認知研究の知見を理解する。

- ・社会的認知の研究手法を理解する。
- ・自分が日常行っている判断・推論・評価について授業で説明された社会心理学の知識を用いて自ら考えることができる。

【概要】 「社会心理学概論」において学習した社会心理学の基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、私たちを取り巻く社会や他の人々あるいは、自分について私たちがどのような理解するのかその認知過程を解説する。その認知過程に影響を与えるさまざまな要因についても取り上げる。

241208 社会心理学（対人過程）

【到達目標】

- ・対人関係や社会的影響過程に関わる社会心理学の知見を理解する。
- ・対人関係や社会的影響過程に関する社会心理学の研究手法を理解する。
- ・自分が経験する対人関係や社会的影響過程について授業で説明された社会心理学の知識を用いて自ら考えることができる。

【概要】 「社会心理学概論」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解を深めることを目指す。本講義では、対人関係に関わる心理や社会的影響過程など、周囲の他者や環境との関わりのなかで生まれる心理について、主要なトピックを取り上げ、解説する。

241209 社会心理学（マクロ・集団）

【到達目標】

- ・社会心理学のマクロなものを見方を身につける。
- ・個人が社会あるいは集団からどのように影響を受けるかとともに、個人と個人の相互作用からどのように社会の諸相が形作られるかを理解する。
- ・授業で学んだ知見を現実の社会と結びつけ、世の中の出来事について社会心理学的に解釈する力を身につける。

【概要】 「社会心理学概論」において学習した社会心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、社会心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解を深めることを目指す。本講義では、個人と社会の関係をマイクロ-マクロ関係という視点から捉え、集合行動、社会規範、文化などのマクロ現象を取り上げる。集団・集団過程を取り上げることもある。

241210 社会心理学（応用）

【到達目標】

- ・授業で取り上げた応用研究の知見を理解する。
- ・授業で取り上げた応用研究の研究手法を理解する。
- ・現実の社会問題に対して、社会心理学の知見の応用可能性について自ら考えることができる。

【概要】 「社会心理学概論」において学習した社会心理学の基礎的理解をもとに、社会心理学における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、領域ごとに異なる研究手法についての理解も深めることを目指す。本講義では、社会心理学の基礎研究に立脚した現実的な問題に焦点を当てた応用的な研究テーマに焦点を当てる。隣接する社会科学の学問において社会心理学研究が応用されている例を取り上げることもある。

241211 発達心理学（情動発達）

【到達目標】

- ・情動発達のプロセスを理解する。
- ・情動発達に関する理論を理解する。
- ・情動発達に関する研究方法について理解し、この領域の特徴や意義を考えることができる。

【概要】 「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、情動発達（情動理解の発達、情動制御の発達、共感性の発達、心の理論の発達などの中からトピックを選ぶ）を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。

241212 発達心理学（社会発達）

【到達目標】

- ・社会発達のプロセスを理解する。
- ・社会発達に関する理論を理解する。
- ・社会発達に関する研究方法について理解し、この領域の特徴や意義を考えることができる。

【概要】 「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、社会発達（対人関係の発達、自己の発達、社会性の発達など

の中からトピックを選ぶ)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。

241213 発達心理学(認知発達)

【到達目標】

- ・認知発達のプロセスを理解する。
- ・認知発達に関する理論を理解する。
- ・認知発達に関する研究方法について理解し、この領域の特徴や意義を考えることができる。

【概要】 「発達心理学概論」において学習した発達心理学全般にわたる基礎的理解をもとに、発達心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。発達心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めることを目指す。この講義では、認知発達(言語発達・概念発達・推論の発達・記憶の発達・論理的思考の発達などの中からトピックを選ぶ)を中心に解説し、発達心理学の発展的な内容を学習する。

241214 教育心理学

【到達目標】

- ・教育心理学に関する理論を理解する。
- ・教育心理学に関する研究方法について理解し、この領域の特徴や意義を考えることができる。
- ・教育心理学の視点から、教育現場への支援について理解する。

【概要】 「発達心理学概論」において学習した子どもの発達および学習の基礎的理解をもとに、教育心理学の主要領域における重要テーマを取り上げ、それらを解説する。教育心理学の研究により明らかになった知見を学ぶだけでなく、その研究手法についての理解を深めるとともに、教育現場への支援について理解することを目指す。この講義では、学校教育と心理学を中心に解説し、教育心理学の発展的な内容を学習する。

241215 心理学的支援法

【到達目標】

- ・代表的な心理療法とカウンセリングの歴史及び理論と方法、適応と限界やその意義について理解する。
- ・関係者の支援や地域支援、心の健康教育などの実践的な介入方法の特徴と課題、また、支援や介入の際のコミュニケーションの方法について理解する。
- ・心理療法における倫理的原則について考える力を養う。

【概要】 「臨床心理学概論」での理解をもとにして、心理的援助の基本となる心理療法の方法について深く学ぶ。心理療法の成り立ちを概観した上で、パーソンセンタード・アプロ

一、精神分析、認知行動療法を中心に代表的な学派をとりあげ、各理論の歴史と背景、技法と適用範囲等の実際的な問題について論じる。心理療法という特殊な対人援助場面における基本的な留意事項、プライバシーへの配慮など倫理的問題を扱うとともに、関係者への支援、地域支援、心の健康教育などの幅広い支援法についても講義を行なう。

241216 教育・学校心理学

【到達目標】

- ・学校教育現場で生じる心理学的援助介入が必要となる心理社会的課題について理解する。
- ・学校教育現場における心理学的援助介入の理論とスキルを身につける。
- ・学校教育現場を中心とした多職種との協働的支援のあり方や倫理的配慮の原則について理解する。

【概要】 「臨床心理学概論」の基礎的理解をもとに、学校教育に関係する場に特有の臨床心理学的援助介入について重要テーマをとりあげ、それらを解説する。また、現場で生じている具体的な心理学的問題とその対応について背景にある理論とその実践について学ぶ。スクールカウンセラーをはじめとする専門家による支援の概要、学校および地域で展開する多職種協働による支援、社会からの要請や果たす役割、さらには倫理的問題等についても講義する。

241217 家族心理学

【到達目標】

- ・家族心理学の基本概念および背景となる理論を身につける。
- ・問題が起こっている個人ではなく、取り巻く環境としての家族等に働きかけるとはどういうことかについて理解する。
- ・家庭・学校・地域・職場等に対する介入や支援や協働における家族心理学の理論と技法を理解する。

【概要】 「臨床心理学概論」の基礎的理解をもとに家族心理学の歴史と内外の動向を概観し、それらの基本概念および背景となる理論について理解を深める。まず、問題が起こっている個人ではなく、取り巻く環境としての家族等に働きかける視点を学ぶ。その上で、家庭・学校・地域・職場等に対して、どのような介入や支援や協働を行うかについて、具体的な事例や視聴覚教材等を通して、家族心理学を実践的に学べるように講義を行う。

241218 産業・組織心理学

【到達目標】

- ・現代社会における心理臨床的支援や心理学的援助介入について理解を深める。
- ・臨床心理学や精神保健学の知見を活用した新しい視点で、現代社会における心理学的問題をとらえなおす力を養う。

- ・職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する支援、組織における人の行動について理解を深める。

【概要】 「臨床心理学概論」の講義において学んだ知識を前提に、現代社会における問題への支援や介入に焦点をあて、臨床心理学、精神保健学の知見がどのように活かされているかを学ぶ。本講義では、個人のキャリア発達や産業・組織心理学の視点から現代社会をとらえ、現代に働く人びと、あるいは、働こうとしている人びとの抱える心理的問題（職業選択、仕事への動機づけ、職場におけるストレスやメンタルヘルスなどの中からトピックを選ぶ）について、その実態から支援や介入まで解説する。

241219 健康・医療心理学

【到達目標】

- ・ストレスと心身の疾病との関連性について理解する。
- ・医療現場における心理社会的課題とそれに対する支援について考える力を養う。
- ・保健活動の現場における心理社会的課題とそれに対する支援について考える力を養う。
- ・災害時などに必要な心理的支援について考えることができる。

【概要】 健康について、生物、心理、社会といった3つの側面から理解をすすめ、ストレスと心身の疾病との関連性について学ぶ。また、保健・医療現場におけるメンタルヘルスへの支援について、観察や投影法、質問紙法といったテストバッテリーの活用、心理相談、心理療法やSSIT、多職種間の連携、地域連携の理論ならびにスキル、職業倫理について解説をする。災害時などに必要な支援の在り方や心的状態への理解についても取り上げる。

241220 障害者・障害児心理学

【到達目標】

- ・身体障害、知的障害、精神障害について基本的な理解を深める。
- ・障害を抱える子どもや成人が体験している心理社会的課題について説明することができる。
- ・障害者・障害児に対して必要な支援について考える力を養う。

【概要】 身体障害、知的障害、精神障害といった障害に関する基本的理解をもとに、障害を抱える子どもや成人が体験している多様な心理社会的課題について具体的な例を通して学ぶ。さらに、障害児や障害者ならびに保護者やともに生きている人たちへの支援の在り方、例えばアセスメントのありかた、合理的配慮、発達の視点をもった介入法などについて解説する。

241221 精神保健学

【到達目標】

- ・心の健康に影響を与える現代社会の諸問題について精神保健の観点から理解する。
- ・心の健康を破綻させるプロセスやそこからの回復プロセスについて学ぶ。

・心の健康の予防について精神保健の観点から理解する。

【概要】 精神保健の諸相について全体的に学ぶ。現代における自己や共同体などの変容、現代社会が直面しているさまざまな現象を取り上げ、それらが人の心に与える影響について理解する。とりわけライフサイクル、性差、文化、時代と いった切り口から理解を深めることを目標とする。また、人の心が健康であるとはどのようなことか、人の心はどのように破綻し、またどのように回復していく のか、さらに破綻を予防するにはどのようなことが可能であるのか、などといった点について具体的な事例を通して学習する。

241222 精神疾患とその治療

【到達目標】

- ・精神医学の全体像(症状、診断、治療など)について、広い観点から体系的に理解する。
- ・現代に多い精神疾患についての精神医学的知識を習得する。
- ・向精神薬をはじめとする薬物療法による心身の変化について理解する。
- ・医療機関との連携について考えることができる。

【概要】 精神病理学, 生物学, 脳科学などさまざまな領域における最近の成果にふれつつ, 発達障害, 解離性障害, パーソナリティ障害, 気分障害, 摂食障害, 心的外傷後ストレス障害など, 現代に特徴的な病態を取り上げ、その成因・症状・診断・治療・支援などについて学ぶ。またストレスやトラウマなどに関する生物学的, 精神医学的研究についても広く解説し, 人間, 生命, 社会についての理解を深めることを目標とする。向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、および医療機関との連携についても触れる。

241223 福祉心理学

【到達目標】

- ・福祉現場において生じる問題及びその背景について理解する。
- ・福祉現場において子どもや成人・老人が体験している心理社会的課題及び必要な支援方法について説明することができる。
- ・発達障害や虐待や認知症について基本的な知識を身につける。

【概要】 福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援方法、虐待、認知症に関する必要な支援方法について学ぶ。特に、児童福祉施設等において、子どもの発達に関する知識や各種心理検査等の技術をもって、子どもの状態、家族像、今の問題点等を包括的に理解評価することや、子ども虐待や認知症に対する十分な理解のうえ、幅広く関係を構築し支援を行う力を身につける。

241224 司法・犯罪心理学

【到達目標】

- ・犯罪・非行、犯罪被害について基本的な知識を身につける。
- ・家事事件の特徴や課題について理解する。

・司法・犯罪分野における心理的支援について考える力を養う。

【概要】 犯罪・非行に法律を適用する国の機関を中心に、犯罪心理学がどのように活かされるのかを学ぶ。犯罪・非行の理解と対応について解説するとともに、特に、警察、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院・刑事施設、保護観察所、犯罪被害者等の諸機関を取り上げ、それぞれの役割や特徴、その実際や現状、抱えている課題等について深める。

241225 心理学特論

【到達目標】

- ・講義で取り上げた先端的または応用的な心理学研究の知見を理解する。
- ・講義で取り上げた先端的または応用的な心理学研究の手法を理解する。
- ・現代社会において問題となっている心理学的テーマを多面的にとらえる力を習得する。
- ・講義で取り上げた先端的または応用的な心理学研究の知見を理解する。
- ・講義で取り上げた先端的または応用的な心理学研究の手法を理解する。
- ・現代社会において問題となっている心理学的テーマを多面的にとらえる力を習得する。

【概要】 本講義では、「知覚・認知心理学概論」「社会心理学概論」「発達心理学概論」「臨床心理学概論」の講義において学んだ知識を前提に、現代社会において問題となっているテーマに焦点を当てる。あるいは、心理学の先端の知見を取り上げ、新しい視点を提供することを目指す。場合によっては、心理学の隣接領域を主たるフィールドとするようなテーマを取り上げることもある。

■基盤演習

241301 1年次演習（心理学）

【到達目標】

- ・心理学の入門的なテキストを通じて、文献を批判的に読む力や論理的思考力を身につける。
- ・文献や資料の探し方を身につけ、自分で分からないことを調べる力を身につける。
- ・大学での学びに必要なアカデミックスキルを身につける。

【概要】 心理学の導入教育としての位置づけで、入門的な内容のテーマで演習を行う。具体的にはこれから4年間に渡る学びの基礎となるアカデミックスキル、例えば、文献を探したり講読したりといった図書館の利用、資料を調べてレジュメを作る技能、プレゼンテーションや意見交換を行うスキル、論理的思考力などの全般的な習得を目指す。少人数による緻密な演習を展開する。

241302 2年次演習（心理学）A

【到達目標】

- ・心理学の専門領域のテキストや論文を通じて、文献を批判的に読む力や論理的思考力を身

につける。

- ・専門領域の文献や資料の探し方を身につけ、自分で分からないことを調べる力を身につける。
- ・専門領域の文献をレジュメにまとめ、発表し、討論するという演習形式の授業に必要な技能を習得する。

【概要】 「1年次演習（心理学）」を踏まえ、この授業では、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の入門的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、また、少人数という場を活用した発表と討論・質疑応答などを行う。論理的思考力や発表時の表現力を養うとともに、取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指す。

241303 2年次演習（心理学）B

【到達目標】

- ・心理学専門領域のテキストや論文を理解したうえで自分の考えを深める力を養う。
- ・専門領域の内外の文献や資料の探し方を身につけ、自分で分からないことを調べる力を身につける。
- ・発表や討論を通して、お互いの意見に耳を傾け、理解し、自分の考えを発展させることができる。

【概要】 「1年次演習（心理学）」を踏まえ、この授業では、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行う。担当教員の専門領域をテーマとし、その分野の入門的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指すことはもちろん、より進んだ「3年次演習（心理学）」で必要となるスキルを身につけることも目標とする。一部の演習で英語による授業をおこなう。

341304 心理学実験入門（心理学研究法Ⅰ）

【到達目標】

- ・心理学における実証研究の意義を理解する。
- ・実験法の基礎を理解する。
- ・測定方法の基礎を理解する。

【概要】 初めて心理学に触れることになる1年次の学生が、心理学の方法論を初歩的な実験などの体験を通して理解することを目指す。人のこころに対して実証的にアプローチすることの意味を解説し、こころを測定するということは何か、その長所と限界について考える。特に本講義では、実験法と質問紙法に焦点を当て、初歩的な実験や尺度構成を体験し、それらを通じて心理学の研究方法について基礎的な理解を目指す。

■ 発展演習

241401 3年次演習（心理学）

【到達目標】

- ・心理学の専門領域の内外の論文を通じて、文献を批判的に読む力を身につける。
- ・専門領域の内外の文献や資料の探し方を身につけ、自分で分からないことを調べる力を身につける。
- ・専門領域の内外の文献をレジュメにまとめ、発表し、討論することを通して、発展的な内容を深く理解する。

【概要】 「1年次演習（心理学）」および「2年次演習（心理学）A・B」を踏まえ、この授業では、心理学の発展的な内容を題材とした演習を行う。それぞれの分野の発展的なテキストや文献などを共通の材料として、テキストや文献の講読、資料作り、発表と質疑応答などを行う。取り上げた発展的な内容について深く理解することを目指すことはもちろん、卒業論文研究に主体的に取り組むことができるよう準備をすすめ、自立した学習者となることを目標とする。

241402 4年次演習（心理学）A

【到達目標】

- ・心理学の研究論文を批判的に読み、研究計画に活かすことができる。
- ・心理学の各領域における研究の進め方ならびに、倫理的配慮への理解を深める。
- ・独自の関心にもとづいて、心理学的研究をデザインし、実行する力を習得する。

【概要】 4年間にわたる学習の総仕上げとなる演習であり、学生各々の卒業論文研究の遂行に必要な知識や技能の習得を目指す。この演習では、主として研究の前段階に必要な技能、例えば、文献の検索、文献の批判的な講読、先行研究を踏まえた研究の立案、予備実験や予備調査の実施、などを学ぶ。それぞれのテーマで卒業論文に取り組むための発展的な内容とし、卒業論文研究の遂行と両輪をなすような内容とする。

241403 4年次演習（心理学）B

【到達目標】

- ・心理学各領域における研究を、独自の計画・デザインにもとづき実際に行うことができる。
- ・データ収集、適切な方法での分析、結果の表示、結果の考察を行う力を身に付ける。
- ・研究論文としてまとめ、それを発表する力を習得する。

【概要】 4年間にわたる学習の総仕上げとなる演習であり、学生各々の卒業論文研究の遂行に必要な知識や技能の習得を目指す。この演習では、主として、データの分析、統計解析や検定の実施、得られた結果の表示と解釈、先行研究なども踏まえた考察、論文執筆の技法、

などを学ぶ。また、研究発表と質的応答のための力を習得する。それぞれのテーマで卒業論文に取り組むための発展的な内容とし、卒業論文研究の遂行と両輪をなすような内容とする。

241404 心理学特殊演習(先端)

【到達目標】

- ・演習で取り上げた心理学のトピックについて理解する。
- ・演習で取り上げた心理学の研究手法を理解し身につける。
- ・発展的な内容について自ら学ぶ力を養う。

【概要】 本演習では、入門、基盤講義、基盤演習のさまざまな授業において学んだ基礎的な知識を前提に、「2年次演習(心理学)A・B」で取り上げる4つの分野(基礎心理学・社会心理学・発達心理学・臨床心理学)のオーソドックスな内容を越えた先端的なトピックや、隣接領域との接点にあるトピックなどを取り上げる。また、上記演習では扱うことのない、統計技法、実験技法などを取り上げることもある。

341405 心理学特殊演習(応用)

【到達目標】

- ・演習で取り上げた心理学のトピックについて理解する。
- ・演習で取り上げた心理学の研究手法を理解し身につける。
- ・応用的な内容について自ら学ぶ力を養う。
- ・心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)、データを用いた実証的な思考方法、研究における倫理について理解を深める。

【概要】 本演習では、入門、基盤講義、基盤演習のさまざまな授業において学んだ基礎的な知識を前提に、「2年次演習(心理学)A・B」で取り上げる4つの分野(認知心理学・社会心理学・発達心理学・臨床心理学)のオーソドックスな内容を越えた応用的なトピックや、現代社会における諸問題に対して心理学が貢献しうる課題について取り上げる。また、応用的な研究手法や質的分析法などを取り上げる。研究倫理についても理解を深める。

■実験・実習

341501 発達臨床基礎実習(心理学研究法Ⅱ)

【到達目標】

- ・データを用いた実証的な思考方法や心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)に基づき観察法、面接法、投影法、質問紙による検査法、発達検査法に関する理論や目的について理解をする。
- ・観察法、面接法、投影法、質問紙による検査法の方法や実践や研究における倫理、分析や結果の記載のしかたについて理解をする。

【概要】 はじめて心理学に触れる1年次の学生が、データを用いた実証的な思考方法や心理学における実証的研究法(量的研究及び質的研究)に基づき調査や研究において用いられる方法について体験を通して理解することを目指す。観察法、面接法、投影法、そして、質問紙検査法や発達検査法の基礎的な理論と方法、実践や研究における倫理、分析のしかたや結

果の記述のしかたを概説する。実際にそれら研究方法を用いた先行研究を理解し、自分たちでも体験学習を通して主体的具体的に学ぶ。

341502 心理的アセスメント

【到達目標】

- ・心理的アセスメントの目的と方法（観察、面接、心理検査）、観点及び展開、倫理について理解する。
- ・知能、パーソナリティ、認知機能等を査定する個別のアセスメント方法の概要を理解し、検査の実施、結果の整理と報告ができる。
- ・テスト・バッテリーの組み方について理解をし、クライアントに役立つ所見作成の力を身につける。

【概要】 心理的アセスメントの目的、方法（観察、面接及び心理検査）、観点及び展開、適切な記録及び報告のしかた、倫理について理解を深める。質問紙法、描画法、知能検査、神経心理学的検査について、各検査法の特徴や実施・整理における留意点を学ぶ。被検者体験、またはロールプレイによる実習体験を振り返ることにより、アセスメント過程における倫理的な諸問題について体験的に理解する。最終的には所見の作成をおこない、支援に結びつく記述やフィードバックのしかたを考える力を養うことを目標とする。

241503 心理学実験演習 I A

【到達目標】

- ・心理学の各領域におけるさまざまな研究方法（実験法・観察法）を実践し、その方法論を身につけることができる。
- ・定量的なデータの統計解析を、必要に応じてコンピュータを用いながら、適切に行う力を養う。
- ・数値データの統計解析を伴った心理学研究のレポートの書き方を理解し、適切なレポートを執筆する力を養う。

【概要】 心理学の基本的な研究方法の理解と研究技法の習得を目指す。心理学の代表的な研究方法のうち、本実験演習では、特に実験法、観察法に焦点を当て、それぞれ実習を通じてその技法を習得する。

（実験法）「心理学実験入門」に続き、心理学における実験法の基礎を学ぶ。主に知覚心理学、認知心理学の領域における基礎的な実験を体験することで、心理学実験における統制、測定について理解を深める。分析、報告書のまとめにあたっては「心理学統計法1」の学習内容を踏まえて、具体的なデータを用いてデータの整理と記述の仕方を習得する。

（観察法）心理学における観察法の基礎を学ぶ。さまざまな事態や形態の観察法があることを学んだ上で、DVD等を利用して観察を実施し、記録の仕方・データのまとめ方についての実験演習を行う。観察法を実施する際の留意点や観察の信頼性についても学習する。〈オムニバス方式〉

241504 心理学実験演習 I B

【到達目標】

- ・認知心理学、社会心理学の実験法とその意義を理解し、計画を立案して適切に実践する力を養う。
- ・質問紙調査法の基本について理解した上で、適切に実践する力を養う。
- ・定量的なデータの統計解析を、必要に応じてコンピュータを用いながら、適切に行う力を養う。
- ・数値データの統計解析を伴った心理学研究のレポートの書き方を理解し、適切なレポートを執筆する力を養う。
- ・心理学研究にまつわるさまざまな問題（研究倫理など）を理解し、それらに配慮した研究を行う能力を身につける。

【概要】 基本的な研究方法の理解と研究技法の習得を目指す。心理学の代表的な研究方法のうち、本実験演習では、特に実験法と質問紙調査法に焦点を当て、それぞれ実習を通じてその技法を習得を目指すとともに、実験の計画立案についても学ぶ。

実験法については、「心理学実験入門（心理学研究法 I）」および「心理学実験演習 IA」に続き、実験法の基礎を学ぶ。主に認知心理学、社会心理学の領域における基礎的な実験を体験することで、心理学実験における統制、測定について理解を深める。質問紙法については、質問紙調査法の基礎を学ぶ。本実験演習全体を通じ、具体的なデータを用い、「心理学統計法 1・2」の学習内容を踏まえて、データの整理、分析と記述の仕方、報告書のまとめかたを学ぶ。〈オムニバス方式〉

241505 心理学実験演習 II（実験法）

【到達目標】

- ・心理学の実験方法について、実際に実験を計画・準備し、実施することで理解を深める。
- ・実験データの分析方法について主体的に考えながら分析を進めることを通して、実践的な統計的分析方法を習得し、レポートとしてまとめる力を養う。
- ・実験者と実験参加者の立場を経験することを通して、心理学研究にまつわるさまざまな問題（研究倫理など）を理解し、それらに配慮した研究を行う能力を身につける。

【概要】 「心理学実験演習 IA・IB」および「心理学統計法 1・2」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法を習得する。小グループに分かれ、それぞれ実験を計画し、実験者として、また実験参加者として実験を体験し、その技法を理解する。実験実施にあたって配慮すべき様々な事柄についても学ぶ。データ分析に必要な統計処理についても学習する。これらによって、実験法を用いて卒業論文を書くための基本的な技法を身につける。

241506 心理学実験演習Ⅱ（調査法）

【到達目標】

- ・心理学の調査方法について、実際に調査を計画・準備し、実施することで理解を深める。
- ・収集したデータに対して統計的分析を行うことを通して、調査データの分析方法を習得し、レポートとしてまとめる力を養う。
- ・調査の実践を通して、調査研究に関わるさまざまな問題（研究倫理など）を理解し、それらに配慮した研究を行う能力を身につける。

【概要】 「心理学実験演習ⅠA・ⅠB」および「心理学統計法1・2」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法の習得を目指す。本実験演習では、調査法を取り上げる。グループに分かれて、調査計画を立て、調査を実施し、収集したデータを分析して、レポートにまとめるという過程を通して、その技法を習得する。また、調査実施にあたって配慮すべき様々な事柄についても学ぶ。これらによって、調査法を用いて卒業論文を書くための基本的な技法を身につける。

241507 心理学実験演習Ⅱ（質的アプローチ）

【到達目標】

- ・臨床心理学や発達心理学の領域における調査研究のあり方、倫理的配慮についての理解を深める。
- ・質的データの集めかた、分析のしかた、結果のまとめかた、考察のしかたを具体的に習得する。
- ・質的アプローチの理論とスキルを習得する。

【概要】 「心理学実験演習ⅠA・ⅠB」および「心理学統計法1・2」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法のひとつである質的アプローチの習得を目指す。分析においては自由記述やプロトコルという質的データの分析のための理論と方法を具体的に学ぶ（たとえばKJ法やGTAなど）。データ収集にあたっての倫理的配慮や、ガイドの作成、分析の方法、結果考察のしかたを小グループによる実習を通じて学ぶ。これらによって、質的アプローチを用いて卒業論文を書くための基本的な技法を身につける。

241508 心理学実験演習Ⅲ（実験法）

【到達目標】

- ・生理心理学の実験方法について、実際に実験の準備と実施を通して理解を深める。
- ・実験データの分析方法の学習と実践を通して、生理心理学実験のレポートをまとめる力を養う。
- ・実験者と実験参加者の立場を経験することを通して、心理学研究にまつわるさまざまな問題（研究倫理など）を理解し、それらに配慮した研究を行う能力を身につける。

【概要】 「心理学実験演習 II」および「生理心理学」において習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、生理心理学に関する実践的研究技法を習得する。小グループに分かれ、それぞれ実験を準備し、実験者として、また実験参加者として実験を体験し、その技法を理解する。実験実施にあたって配慮すべき様々な事柄についても学ぶ。データ分析に必要な統計処理についても学習する。

241509 心理学特殊実験演習

【到達目標】

- ・心理学各領域での研究を行う際に必要な知見・理論，研究動向，方法論などについての知識を身につける。
- ・各領域での発展的な研究方法を実践する力を習得する。
- ・より専門的な研究レポートの執筆に習熟する。

【概要】 「心理学実験演習 II」の次の段階であり、「4年次演習(心理学)」や卒業論文研究への準備段階として位置づけられている実験演習である。学生は、自分の卒業論文研究のテーマと内容を想定して、実験演習の内容を自分で選択する。心理学の領域ごとの必要性に応じて、卒業論文研究への前提として必要となる専門的な知識や技能の習得を目指す。具体的には、文献の検索、専門的な文献の講読、実験や調査等の研究計画の立案、研究の実施、データ分析と考察、プレゼンテーションやレポート執筆、などである。

■公認心理師特設科目

241701 公認心理師の職責

【到達目標】

- ・公認心理師の役割について理解する。
- ・公認心理師の法的義務及び倫理について、社会の実情に基づいて考えることができる。
- ・心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取り扱いについて理解する。

【概要】 公認心理師の職責に関する事項について理解することを目指す。具体的には、公認心理師の役割や公認心理師の法的義務及び倫理を、法律や社会の現状に基づいて学ぶ。さらに、心理に関する支援を要する者等の安全の確保、情報の適切な取扱い、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務、公認心理師自身の自己課題発見・解決能力の向上、生涯学習への準備、多職種連携及び地域連携のあり方について学ぶ。

241702 人体の構造と機能及び疾病

【到達目標】

- ・心身機能と身体構造について基本的な理解をする。
- ・代表的な疾病や障害について基本的な知識を習得する。

・がんや難病など心理的支援が必要な疾病とその心理的ケアの基本について理解する。

【概要】 細胞、組織、器官によって構成されている人間の体の基本的構造について学ぶ。さらに炎症、感染、免疫、腫瘍など、病気の成立に関係する病態生理について学習する。その上で代表的な疾病や障害（運動器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌・代謝疾患など）の基本的知識について理解する。また心理的支援が必要な疾患（過敏性腸症候群、気管支喘息、摂食障害、慢性疼痛、がん、パーキンソン病、終末期患者など）の心理的ケアの基本についても取り上げる。

241703 関係行政論

【到達目標】

- ・保健医療分野に関連する制度を理解する。
- ・福祉分野に関連する制度を理解する。
- ・教育分野に関連する制度を理解する。
- ・司法・犯罪分野に関連する制度を理解する。
- ・産業・労働分野に関連する制度を理解する。

【概要】 国民の心の健康を保持推進するための社会全体の制度や法律について広く学び、さらに心の支援に関する法律の全体像と援助者としての役割について理解する。具体的には、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野など、主要な五分野の法律や制度について、事例を紹介しながら解説する。また行政による住民サービスにおける心理業務の内容や課題についても知識を深める。

241704 心理演習

【到達目標】

- ・心理支援を要する者に対するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援について、具体的な知識と技能を習得する。
- ・心理的支援を必要とする子どもや成人のニーズや心理的状态を把握し、支援計画を作成することができる。
- ・心理的支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて考えることができる。
- ・多職種連携と地域連携について実際に考えることができる。

【概要】 知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、事例検討で取り上げる。（ア）心理に関する支援を要する者等に関する、コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識御酔い技能の修得。（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成。（ウ）心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ。（エ）多職種連携及び地域連携。（オ）公認心理師としての職業倫理及び法的

義務への理解。

241705 心理実習

【到達目標】

- ・保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野について、心理的支援を要する者へのチームアプローチの実際を理解する。
- ・各分野の施設における多職種連携及び地域連携について理解する。
- ・公認心理師としての職業倫理及び法的義務について臨床現場の特質・実情をふまえて考えることができる。

【概要】 次に掲げる事項について、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野の施設において、見学等による実習を行いながら、当該施設の実習指導者または教員による指導を受け、基本的な水準の修得をはかる。(ア) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ。(イ) 多職種連携及び地域連携。(ウ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解。

コミュニケーション専攻

■入門

242001 コミュニケーション概論 II (メディア)

【到達目標】

- ・これまでのマス・コミュニケーション研究の展開について理解する。
- ・マス・コミュニケーションの効果・影響に関する理論を理解する。
- ・マス・コミュニケーションが持つ効果・影響を踏まえ、マス・コミュニケーションの使命・役割について検討することができる。

【概要】 マス・コミュニケーションという研究領域は学際的な研究分野であり、他の学問分野よりも歴史が浅い。この授業では、マス・コミュニケーション研究がどのように発展してきたかを理論的変遷と共に学ぶ。また、マス・コミュニケーションの効果・影響に関する古典的研究から新しい研究までを学ぶことで、マス・コミュニケーションとオーディエンス・社会との関係について考える。そうした知識を踏まえ、マス・コミュニケーションの使命・役割について多角的な視点から検討する。

242002 コミュニケーション概論 II (情報デザイン)

【到達目標】

- ・情報デザインの重要性を理解する。
- ・デザイン思考の考え方を理解する。
- ・現代社会の問題点を発見し、ICTを活用して解決することで人間を幸せにするというテーマに関して、コミュニケーション専攻で学ぶにはどうすればよいかを考えることができる。

【概要】 コミュニケーション専攻1年生の入門科目として、前提知識を必要とせず、情報デザインの基本を学ぶ科目である。情報デザインはICTが不可欠な現代社会をより良くデザインすることであり、イノベーションを生む発想法としてデザイン思考が注目されている。そのような背景を念頭に置いて、情報デザインとデザイン思考の基本をグループワークやワークショップなどの実践的内容を交えて学ぶ。この授業を、人間を幸せにするICTの使い方を考える出発点とすることを目的とする。

242003 コミュニケーション概論 II (多文化)

【到達目標】

- ・多文化コミュニケーションに関する基本的知識を習得する。
- ・異文化体験、多文化共生について考える力を養う。
- ・多文化共生時代における人間の変化と発達を理解する力を養う。

【概要】 現代世界において、人は多様な文化に出会う。自文化との接触にはじまり、他の文化と出会い、他の文化と自分の文化を比較することにより、個人の意識や行動パターンは変化していく。ここでは、多様なルートによる異文化接触の具体的事例を通して、個人が新しい文化や他者との出会いを通してどのように成長し、変化していくかを学ぶ。具体的には「文化とコミュニケーション」に関する研究の流れ、異文化適応・文化人類学・異文化教育・文化心理学などに関する理論について学んでいく。

■ 基盤講義

242101 コミュニケーション統計法 1

【到達目標】

- ・記述統計を中心とした統計学の基礎的な概念を理解した上で、データを客観的に整理し、分析できる力を身につける。
- ・統計的な記述の含まれる論文を正確に読むことができる力を身につける。
- ・統計ソフト SPSS の基本的な使い方を習得する。

【概要】 本講義はコミュニケーション専攻の2年生全員を対象にした必修科目である。専攻の専門科目の学習や卒業研究においては、統計的記述の含まれる論文を読む力と、自分で統計資料を整理し、データを分析する力が求められる。本講義では、そのために必要な統計学の基礎を習得する。また、統計分析ソフト「SPSS」を使って自分でデータを扱える力も養う。

242102 コミュニケーション統計法 2

【到達目標】

- ・推測統計を中心とした統計学の概念を理解し、統計的知識を活用してデータを分析できる力を身につける。
- ・データ分析、検定の結果を、正しく解釈する力を身につける。
- ・目的とする分析のためには、どのようなデータを集め、どのような統計分析が望ましいかを、自らが適切に判断できる力を身につける。

【概要】 統計の基礎知識を活用し、自分でデータ分析ができる力を身につけることを目標とする。具体的には、記述統計の基礎的な理解をふまえたうえで、度数分布表、相関散布図、正規分布、クロス表などの記述統計をベースとして、確率論の基礎、母集団と標本・標本抽出法のサンプリングの概念、検定・推定の理論とその応用(平均と比率の差の検定、相関係数の検定、クロス表の独立性の検定など)に加え、分散分析、回帰分析、重回帰分析などの一般的な回帰分析の基礎などを扱う。

242103 先端トピック概論（コミュニケーション）A

【到達目標】

- ・講義で取り上げた先端的なコミュニケーション研究の知見を理解する。
- ・講義で取り上げた先端的な研究の手法を理解する。
- ・講義で取り上げたコミュニケーション研究の新しい視点を理解する。

【概要】 本講義では、メディア環境が多様化し、多文化、情報化が進む現代社会において、多文化、メディア、情報デザインと関連するオーソドックスなテーマには収まりきらない、コミュニケーションに関する先端的な研究テーマを扱う。特に、各領域における最新の知見を中心に取り上げ、尚かつ、学際的な、領域横断的な新しい視点を提供することを目指す。コミュニケーションの枠組みを広げ、深めるようなテーマに取り組む。

242104 先端トピック概論（コミュニケーション）B

【到達目標】

- ・講義で取り上げた先端的なコミュニケーション研究の知見を理解する。
- ・講義で取り上げた先端的な研究の手法を理解する。
- ・講義で取り上げたコミュニケーション研究の隣接領域における新しい研究視点を理解する。

【概要】 本講義では、メディア環境が多様化し、多文化、情報化が進む現代社会において、多文化、メディア、情報デザインと関連するオーソドックスなテーマには収まりきらない、コミュニケーションに関する先端的な研究テーマを扱う。特に、これまで通りのオーソドックスなコミュニケーション研究の枠組みにとらわれない、新しい視点を提供することを目指す。例えば、医療、福祉、教育、芸術などコミュニケーション研究の隣接領域を主たるフィールドとするようなテーマを取り上げることもある。

■ 特殊講義

242201 メディア心理学

【到達目標】

- ・メディアの利用行動と心理の特徴を理解する。
- ・メディアの社会的影響に関する理論を習得する。
- ・情報行動と心理に関する専門知識と理論を身につける。

【概要】 私たちは、現代社会の重要な情報源であるメディアとのかかわりにおいて社会を認識し、様々な生活場面における意思決定や価値判断においてメディアの影響を受けている。メディアの発達と情報化が人々の行動と心理に及ぼす影響について、メディア環境の変化とメディア利用状況、ニュースやエンターテイメントなどのメディアコンテンツの利用行動と心理、消費者、生活者、有権者などの様々なオーディエンスとメディア、モバイルとオンライン上のコミュニケーションと情報行動などを中心に講義する。

242202 コミュニケーション心理学 A

【到達目標】

- ・コミュニケーション心理学の基礎知識を習得する。
- ・コミュニケーション心理学の中で、対人レベルに関する諸説の重要性を理解する。
- ・コミュニケーション心理学の中で用いられる主な研究方法を理解する。

【概要】 コミュニケーション心理学が扱う領域の中から、特に対人レベルのコミュニケーションと関連するテーマを中心に講義する。例えば、社会的認知とコミュニケーション、経済心理学〔行動経済学〕と判断・意思決定、非言語コミュニケーション、恋愛の科学などを取り上げる。また、それぞれのトピックに関する調査・実験研究の事例紹介を通じて、コミュニケーション心理学で用いられる主な研究方法に対する理解も深めてもらう。

242203 コミュニケーション心理学 B

【到達目標】

- ・コミュニケーション心理学の基礎知識を習得する。
- ・コミュニケーション心理学の中で、集合現象に関する諸説の重要性を理解する。
- ・コミュニケーション心理学の中で用いられる主な研究方法を理解する。

【概要】 コミュニケーション心理学が扱う領域の中から、特に集合現象と関連するテーマを中心に講義する。例えば、うわさ・流言の心理学、群衆行動と群衆心理、流行現象とメディア、イノベーションの普及過程などを取り上げる。また、それぞれのトピックに関する調査・実験研究の事例紹介を通じて、コミュニケーション心理学で用いられる主な研究方法に対する理解も深めてもらう。

242204 メディアとことば

【到達目標】

- ・メディアにおける言語情報・言語使用の特徴について理解する。
- ・言語とメディアの関わりについて様々な視点から検討する力を養う。
- ・発信力、表現力を高める文章作成法を習得する。

【概要】 メディアにおける言語情報・言語使用の持つ意味と特徴を考え、様々なメディアを駆使し、ことばで伝える能力を高める。活字メディア、放送メディアなどのマスメディアのニュースや広告など、送り手によって発信される言語情報の内容や形態を分析し、その社会的影響について理解を深める。また、ソーシャルメディアにおいては、ユーザーが自由に発信・共有することで、言語情報が拡散されている。多様化するメディア社会における情報発信の担い手として、様々なメディアのことばに触れて分析し、発信力、表現力を高める文章作成についても学んでいく。

242205 メディア社会論

【到達目標】

- ・メディアの影響に関する基本的な知識を習得する。
- ・現代社会におけるメディアの重要性を理解する。

【概要】 メディア社会論の中からいくつか重要なテーマを選んで講義する。特に、テレビや新聞などのマスメディアあるいはインターネットや携帯電話・スマートフォンなどの新しいメディアが、現代社会においてどのような社会的影響力を持っているのかについて、社会学や社会心理学の視点から詳しく解説していく。また、メディアが伝える情報の内容分析などについても講義する。

242206 メディア文化論

【到達目標】

- ・メディアと我々の生活様式や行動様式、我々のアイデンティティ、集合的記憶などの文化的側面との関係について理解する。
- ・メディアが文化に及ぼす影響を多面的に検討するための視点を習得する。
- ・メディアの社会的・文化的影響を批判的に検討するための視点を習得する。

【概要】 テレビやケータイなどのメディアは、今日我々の生活の一部となっている。我々の生活様式や行動様式は、メディアの影響により変容し、アイデンティティはメディアへの接触を通して強化され、集合的記憶もメディアへの接触により構築されている。そのため、メディアは文化的側面への影響を持つと考えられる。この講義では、実証研究や事例などの学習と理論的検討を通して、そうしたメディアの社会的・文化的影響を理解する。同時に、メディアの社会的・文化的影響を、多面的かつ批判的に検討する視点を習得する。

242207 メディア産業論

【到達目標】

- ・日本のメディア産業を市場規模、産業構造といった産業的側面から理解する。
- ・メディア産業の変化と情報技術の発達との関係について理解する。
- ・産業的視点からメディアを検討する専門的知識を習得する。

【概要】 日本をはじめ世界中のメディア産業が、情報技術の発達によって急速に変化してきている。この講義では、新聞、出版、放送、通信、インターネット、音楽、映画、広告などのメディア産業について、その市場規模、産業構造が情報技術の発達によってどのように変化したかについて理解を深める。また、新聞社のインターネットの活用、音楽コンテンツや放送コンテンツのインターネット配信などにみられるように、情報産業とメディア産業の融合が進んでいる。そうした融合がもたらす、新しいメディア産業のあり方についても検討する。

242208 メディア史

【到達目標】

- ・メディアの発展史と現状に関する基礎知識を習得する。
- ・メディア・コミュニケーションの社会的影響に関する基礎知識を習得する。

【概要】 文明を発明して以来、人間のコミュニケーションの形態はいくつかの点で重要な変化をとげてきた。本講義では、様々な情報メディアの発展史と現状を概観しながら、人間コミュニケーション、特にメディアを通じたコミュニケーションの変化とその社会的影響について詳しく解説する。具体的には、文字の発明とその社会的影響、印刷術の完成とその社会的影響、新聞メディアの誕生とその社会的影響、映画の登場とその社会的影響、放送メディアの社会的影響と現状などについて取り上げる。

242209 ジャーナリズムと現代社会

【到達目標】

- ・ジャーナリズムについての基礎的な知識を習得する。
- ・ジャーナリズムの意義・役割への理解を深め、現代社会で必須の「情報を読み解く力」を身につけることを目標とする。

【概要】 新聞、テレビ、インターネットを通じて流される政治、経済、災害、紛争・戦争などに関する今日のニュースを題材に、現代社会においてメディア・ジャーナリズムが果たしている役割を理解し、ジャーナリストの使命と一般市民の「知る権利」の関係について学ぶ。また、ジャーナリズムの発展過程とその過程におけるジャーナリズムの問題(戦争報道、原発報道、虚偽報道など)についても学ぶことで、ニュースを的確に理解し情報を読み解く力、情報を発信する立場になった際に必要な倫理意識を学ぶ。

242210 広告と消費者心理

【到達目標】

- ・広告、メディア、社会の関係について理解する。
- ・広告研究に関する専門知識と理論を身につける。
- ・消費者行動と心理に関する専門知識と理論を身につける。

【概要】 多様化・複雑化するメディア環境と企業環境に注目し、広告・消費・マーケティングの諸問題について理解を深める。広告の社会的、経済的意義を理解し、変化する情報空間・都市空間・消費空間で展開される広告の諸問題について講義する。広告の社会的・経済的意義を理解し、広告が伝える情報とイメージの分析、広告の効果、広告と消費者行動、社会や時代と広告との関わり、社会的・文化的表象としての広告、社会的メッセージとしての広告とその影響、インターネットにおける広告の新しい展開と消費者行動について考える。

242211 ジェンダーとメディア

【到達目標】

- ・メディアに表象されるジェンダーを分析・検討する理論について理解する。
- ・ジェンダーの視点からメディアに描かれる男女像や男女関係について批判的に検討する視点を養う。
- ・メディアにおけるジェンダー表象の分析・検討を通して、自分自身や社会の中にあるジェンダー意識を再考する。

【概要】 ジェンダーの問題は、ドラマや映画などの映像メディア、ニュース番組や新聞記事などの報道、小説や漫画などの娯楽メディアなどに顕著に表れていることが多い。この授業では、そうしたメディアに表象されるジェンダーを分析・検討する理論について理解を深める。さらに、メディアに描かれるジェンダーを批判的に検討する視点を養う。そうしたことを通じて、自分自身や社会の中にあるジェンダー意識を再考し、メディアにおけるジェンダーがオーディエンスに与える影響について考える。

242212 グローバルメディア

【到達目標】

- ・情報と社会の関係を理解する。
- ・グローバル社会とメディアとの関わりについて様々な視点から検討する力を養う。
- ・グローバル社会におけるメディアの影響に関する専門知識と理論を身につける。

【概要】 伝統的なマスメディア時代においては、外国の情報やメディア・コンテンツへの接触はかなり限定されていたが、衛星放送やインターネットなど、新しいメディアテクノロジーの発達と普及によって、メディア・コンテンツは国を超え、グローバルに利用され、消費されている。本講義では、情報と社会変動の関連を概観し、益々デジタル化、モバイル化が進んでいく情報化社会の特徴とメディアの社会的影響について、グローバルな視点から検討する。

242253 メディアと経済

【到達目標】

- ・メディア、社会、個人の関係について理解する。
- ・我々の意識や生活行動に影響を与えるメディアとの関わりを実際の事例をもとにした様々な視点から検討する力を養う。

【概要】 従来の枠組みが崩れ、あらゆるものが多元的にメディアになりうる時代に、メディアを通して、実際にどのように経済が回っているか、それが生活者ひとり一人の幸せにどうつながっているのか、そしてこれからの生活者にとってメディアはどのような存在になっていくのか、を実務家たちの現場を通してその実体を理解する。

242213 デザイン思考 I

【到達目標】

- ・デザインとは何かを理解する。
- ・人間中心設計の取り組み方を理解する。
- ・情報デザインやデザイン思考のプロセスと各プロセスの手法を演習を交えて理解する。

【概要】 情報デザインとデザイン思考、両者に共通する思想である人間中心設計の基本を学ぶ科目である。デザインとは何か、情報デザインとは何か、情報デザインのプロセス、ユーザ調査のための手法（ユーザ調査・インタビュー・フィールドワークなど）、コンセプト化のための手法（コンセプトデザイン・ペルソナ手法・シナリオ手法・発想法など）、視覚化のための手法（構造の視覚化・情報の構造化・アイデアスケッチなど）を、グループワークや実体験を積み重ねながら学ぶ。

242214 デザイン思考 II

【到達目標】

- ・情報デザインの各プロセスの手法、特にプロトタイプと評価の手法を、演習を交えて理解する。
- ・感性を科学する手法を理解する。
- ・情報デザインを実践する取り組みができる。

【概要】 人間中心設計の考えに立って情報デザインを自分の活動で実践できるようになるために、「デザイン思考 I」と合わせて、情報デザイン、デザイン思考、人間中心設計の手法を学ぶ科目である。この科目では特に、プロトタイプを制作して、ユーザや専門家が評価する手法、感性を科学する方法などを、グループワークや実体験を積み重ねながら学ぶ。主観的要素である人の感覚（感性）を評価することで、それ以外の手法とは異なるアプローチで人間を理解することができる。

242215 ユニバーサルデザイン（人間中心設計）

【到達目標】

- ・情報デザインの基本である人間中心設計の重要性を理解する。
- ・ユニバーサルデザインを実践できる。
- ・ユーザビリティ、多様なユーザ、アクセシビリティ、ユーザ体験の基本を理解する。
- ・人間中心設計の考え方に沿って情報デザインを実践できる。

【概要】 情報デザインコースの中軸となる「人間中心設計」の考え方を学ぶ科目である。できるだけ多くの人々が利用できるように設計段階で検討するユニバーサルデザインを例にとって、自分たちでデザインを考えて評価する体験を交えてこの分野の考え方を学ぶ。ユーザビリティ（使いやすさ）、アクセシビリティ（障害者や高齢者が使えること）、ユーザ体験

(嬉しい利用体験) やこれらの評価手法も経験し、この科目との関連を議論する。

242216 ユニバーサルデザイン (心理物理)

【到達目標】

- ・ユニバーサルデザインの基本的な考え方と態度が身につく。
- ・心理物理という方法論を理解し、デザインする場面で応用できるようになる。
- ・実際に効果が出るようにするには、環境や生活をどうデザインすべきかを自律的に考え、行動できる。

【概要】 ユニバーサルデザインは、より多くの人々が効果的に楽に利用できる環境や仕組みを求めるポリシーである。そのポリシーを実効性のあるデザインに結びつけるためには、実証性が求められる。本講義では、実効性のあるデザインにたかめていくデザイン心理的アプローチの中でも、特に心理物理を用いる方法論を講義する。実例をあげ、シミュレーションや実測を折り込みながら体験的に学習ができるよう工夫する。

242217 デザイン心理 (視覚)

【到達目標】

- ・さまざまな AV 機器やコンテンツのデザインが、人間の視覚のしくみや視覚メッセージのあり方と密接に関わっていることを理解する。
- ・人間の視覚のしくみ、視覚的メッセージ—視線や色、表情、文字—のしくみやことばを理解するしくみについて体系的に理解する。
- ・高齢だったり視覚障害があったりする場合の問題と、その解決方法の原理を理解する。

【概要】 情報技術が進歩し、映像や音声データがデジタル化され、さまざまな通信メディアを通じて人間のコミュニケーションを豊かにしている。AV 機器やコンテンツのデザインは、人間の視覚・聴覚の特性に適合するように発展してきた。この講義では、人間の非常に優れた感覚の特性と、その特性が AV 機器やコンテンツにどう反映されているのかを学ぶとともに、高齢・障害のある人の特性とユニバーサルデザインについても触れる。この科目については視覚を中心に扱う。

242218 デザイン心理 (聴覚)

【到達目標】

- ・さまざまな AV 機器やコンテンツのデザインが、人間の聴覚のしくみや発話のしくみと密接に関わっていることを理解する。
- ・人間の聴覚のしくみ、発話のしくみ、ことばを聞き取るしくみについて体系的に理解する。
- ・高齢だったり難聴があったりする場合の問題と、その解決方法の原理を理解する。

【概要】 情報技術が進歩し、映像や音声データがデジタル化され、さまざまな通信メディアを通じて人間のコミュニケーションを豊かにしている。AV 機器やコンテンツのデザイン

は、人間の視覚・聴覚の特性に適合するように発展してきた。この講義では、人間の非常に優れた感覚の特性と、その特性が AV 機器やコンテンツにどう反映されているのかを学ぶとともに、高齢・障害のある人の特性とユニバーサルデザインについても触れる。この科目については聴覚を中心に扱う。

242219 ICT リテラシー I

【到達目標】

- ・情報システムの基礎を理解し、社会の情報化の進展に主体的に対応することができる。
- ・情報システムを扱う職業人に必要な知識を、演習を含めて習得する。

【概要】 コンピュータの発達と普及が目覚ましい現代社会において、情報システムの基本を学ぶことが重要である。この科目は、情報システムの中でも重要な表計算、リレーショナルデータベース、ネットワークなどを取り上げる。情報システムを扱う職業人として必要なレベルの基礎知識を、実際にコンピュータを操作する機会を提供しながら初心者にもわかりやすいように学習する。この科目を学ぶことにより、ICT 分野への就職に役立つ力を養うことができる。

242220 ICT リテラシー II

【到達目標】

- ・情報システムの基礎を理解し、社会の情報化の進展に主体的に対応することができる。
- ・「ICT リテラシー I」と合わせて、エントリーレベルの情報処理技術者試験に合格するために必要な知識を学習する。
- ・現代社会で大きな役割を果たしている情報システムにおいて重要な、セキュリティと知的財産権に関して特に詳しく学ぶ。

【概要】 情報システムの基本分野の中からより広く視野を広げて、職業人として必要となる基礎知識を学ぶ科目である。この科目では、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系など、現代社会の ICT とその使い方を理解するために重要なテーマを、エントリーレベルの情報処理技術者試験に合格できるレベルで学ぶ。特に現代社会で重要なテーマであるセキュリティと知的財産権に関して詳しく扱う。この科目を学ぶことにより、ICT 分野への就職に役立つ力を養うことができる。

242221 インターネット・バイ・デザイン I

【到達目標】

- ・インターネットの原理について、その考え方と仕組みについて理解する。
- ・インターネットがデザインされている原理と、その基本的役割について理解する。
- ・インターネットが前提となった社会において、新しい社会をデザインしていく可能性について考えることができる。

【概要】 普段何気なく使っているインターネットであるが、それが人間同士のコミュニケーションや社会に与えている影響は大きく、現代社会にはなくてはならないインフラにまで成長した。本講義では、インターネットが一体どうデザインされているのか、その仕組みを述べ、どのような役割を担っているのかを紹介しながら、インターネットとはどのようなものなのかについて講義する。そこから、インターネットを前提とした社会をデザインしなおす可能性について展望する。

242222 インターネット・バイ・デザイン II

【到達目標】

- ・インターネットの利点と問題点について理解する。
- ・インターネットが前提となったときに、社会にどのように影響を与えどのような役割を担っているか理解を深める。
- ・インターネットが前提となった社会において、自分の活動・生活をどうデザインすべきかを自律的に考え行動できる。

【概要】 今やさまざまな局面でインターネットが利用されている。必要な情報を容易に取得できる利点もあるが、ウィルス被害や個人情報流出といった問題点も存在する。本講義では、社会においてインターネットがどのように利用されているかを見ながら、インターネットに求められていること、インターネットの可能性について考える。特に、社会基盤としてのインターネットに求められている、セキュリティに関する問題や新しいコミュニケーションのデザイン、新しい社会の仕組みの創出について学ぶ。

242223 Web デザイン

【到達目標】

- ・現代 ICT 社会の中核をなす Web 技術を、開発側とユーザ側の両方の視点で理解する。
- ・モバイルを始めとした Web デザインを理解する。
- ・卒業研究で使用できるようなプロトタイプを制作することができる。

【概要】 Web は現代の ICT 社会の中核をなす技術とメディアになっている。このような背景を念頭に置いて、Web 技術（HTML と CSS）の基本を取得した学生を対象に、情報アーキテクチャ、Web 開発のフレームワーク、モバイルデザインなどを紹介しながら、卒論で使うプロトタイプや外部発表できるような Web 作品を制作することを目標とする科目である。ユーザビリティとアクセシビリティに配慮した Web の開発と評価についても、実践的体験によって学ぶ。

242224 SNS コミュニティデザイン

【到達目標】

- ・様々な SNS の特徴を体系的にまとめることができる。

- ・ SNS でのコミュニケーション行動を理解できる。
- ・ SNS コミュニティデザインの事例を知り、その評価方法を考えられる。
- ・ SNS コミュニティデザインの可能性について考えられる。

【概要】 本科目は、インターネットを用いたコミュニケーションであるソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（SNS）を取り上げる。まず、現在の主流の SNS を中心にその特徴を体系的に学ぶ。また SNS でのコミュニケーション行動、コミュニティを様々な角度から理解する。そして、学校や企業、地域での SNS の活用例をもとにして、より深く SNS の特徴やコミュニティデザインについて学ぶ。さらに、授業の中で SNS コミュニティデザインの実践を体験し、その評価方法を検討し評価することで、SNS コミュニティデザインの可能性を考える。

242225 ユーザニーズ分析

【到達目標】

- ・ ユーザ要求の分析の重要性を理解する。
- ・ 講義内で扱った各種手法の適用場面と適用方法を習得する。
- ・ ユーザの要求を的確に理解し、適切に文書として記述することができる。

【概要】 開発したいものがあつたとき、それをどのようなものとして開発するかを決定すること、つまり開発したいものに対する要求を分析することは、ものづくりの最初のステップである。このときに行うことは、開発するものに対する関係者（ステークホルダ）をリストアップし、ステークホルダからの要求を引き出す。その要求について、ステークホルダ同士の意見の衝突を調整し、実現可能な形にまとめ、最終的に文書として記述することである。本講義では、まず、適切にユーザ要求の分析がなされることの重要性について学ぶ。そして、ステークホルダの中でも特にユーザからの要求を中心に、各段階で利用できる手法を学習する。

242226 コミュニケーションと女性のキャリア

【到達目標】

- ・ 情報化によるビジネス環境の変化や女性の働き方に及ぼす影響を理解する。
- ・ 企業における ICT の活用方法を理解し、職業倫理を養う。
- ・ ダイバーシティやワークライフバランスの重要性を認識する。

【概要】 現在、私たちにとって ICT の活用は必要不可欠なものになりつつある。このことによって働き方も変化している。本授業では、社会の情報化の進展や情報システムについて理解し、その上で、情報化によってビジネス環境がどのように変化しているのか、企業において ICT がどのように活用されているのかを学ぶ。また、ICT によって労働観がどのように変化したのか、また将来どのように変化していくのかについても議論する。ユニバーサルデザイン視点などに立って、女性の視点での働き方を考える。

242227 多文化コミュニケーション

【到達目標】

- ・多文化とコミュニケーションに関連する学問知識(理論、用語)を習得する。
- ・異文化体験、多文化共生について考える力を養う。
- ・多文化共生時代において、知識を応用する力を養う

【概要】 多文化が共生する現代世界において、人は文化に出会う。自文化との接触にはじまり、他の文化との出会い、他の文化と自分の文化を比較することにより、個人の意識や行動パターンは変化していく。ここでは、多様なルートによる異文化接触の具体的事例を通して、個人が新しい文化や他者との出会いを通してどのように成長し、変化していくかを学ぶ。具体的には「文化とコミュニケーション」に関する研究の流れ、異文化適応・文化人類学・異文化教育・文化心理学などに関する理論について学び、子どもの異文化体験や日本にいる移民の異文化体験など異文化接触の具体例を紹介し、それについての議論・発表などもおこなう。

242228 対人コミュニケーション (家族)

【到達目標】

- ・対人コミュニケーションのはじまりとなる親子関係・家族関係について、基礎的知識を得る。
- ・家族におけるコミュニケーションの困難が及ぼし得る影響について理解する。

【概要】 人間は、社会的動物である。言いかえれば、人と人との関係を通して自己を形成していく存在である。生まれた直後にはじまる第一養育者との関係と自己理解、さらにそれが対人認知の枠組みを広げていくと考えられる。日常生活における他者とのインタラクションが、他者の認識と自己理解に影響していく。この講義では、発達心理学的視点と社会心理学的視点から、対人関係の基盤となる家族とのコミュニケーションを通しての人間の成長を、生まれてから青年期、老年期まで包括的に検証していく。

242229 対人コミュニケーション (社会)

【到達目標】

- ・対人コミュニケーションの場としての社会、特にビジネス場面でのコミュニケーションについて、基礎的知識を得る。
- ・家族におけるコミュニケーションの困難が及ぼし得る影響について理解する。

【概要】 人間は、社会的動物である。人が生活する場は、家庭から社会へと年齢と共に拡大し、またより多くの他者を相手とすることとなる。ここでは、社会、特にビジネス場面でのコミュニケーションの特徴を学び、葛藤場面でのコミュニケーション、相手を説得するためのコミュニケーションについて分析、理解し、その上で Well-being の高まるコミュニケ

ーションとは何か、を検討していくことを目的とする。

242230 対人コミュニケーション（ジェンダー）

【到達目標】

- ・対人コミュニケーション（言語行動、ポライトネス使用、他者の発話の解釈・推論など）における男女差について基礎知識を得る。
- ・コミュニケーション・パターンの違いが対人コミュニケーションに及ぼし得る影響について理解する。

【概要】 対人コミュニケーションの仕方は、話者の属性によって異なる傾向があり、属性差の主要な例としてジェンダーによる違いがあげられる。コミュニケーション行動の特に言語的な部分を中心に、男女差が、言語形式（男ことば、女ことばなど）にとどまらず、言語行動の選択、フェイス保持やポライトネス使用、含意や推論の仕方など、語用論的行動の多岐にわたること、そしてそれが異性間コミュニケーションに影響を及ぼし得ることを、日米の調査研究をもとに議論する。また、行動の違いと社会的に期待されるジェンダー像との関わりについても考察する。

242231 ダイバーシティとコミュニケーション

【到達目標】

- ・ダイバーシティとは何かを理解する。
- ・コミュニケーション障碍についての、基礎的知識を身につける。
- ・コミュニケーションの違いを通して、障碍を持つことを理解し、違いをこえたコミュニケーションの方略を体得する。

【概要】 ダイバーシティとは人間の多様性を表すことばである。国籍、人種や男女といった違いだけでなく、機能的損傷などによるコミュニケーションの相違も含まれる。コミュニケーションの違いを通して、障碍を持つことを理解し、違いをこえたコミュニケーションの方略を体得する。この講義では、社会の中でのダイバーシティを理解し、その上でコミュニケーション障碍をもつ人をインクルージョンしていく方法について、様々な方策を検討、議論していく。

242232 文化心理学(文化と自己)

【到達目標】

- ・文化心理学(文化と自己について)の基本的知識を習得する。
- ・こころのあり方の多様性を考える力を養う。
- ・文化心理学におけるさまざまな研究手法を理解し、データを読み解く力を養う。

The goal of course will 1)Understanding the concept of cultural self, 2)Understanding the various process of mind, 3)Achieing and understanding the

various method

【概要】 異文化に出会うことは、言葉や社会システム、習慣の違いに驚くことでもある。そのような違いは、行動ばかりでなく心理プロセスにも表される。本講義では、心の社会的構造に着目する文化心理学を学ぶ。基本的概念である、文化的自己観と相互構成過程について実証研究から検証していく。特に、東洋で優勢な相互協調的自己観と西洋で優勢な相互独立的自己観に基づく心の違いをながめながら、文化に生きる人を理解することが目標である。This course reviews the field of cultural psychology. Cultural psychology is centered on several overarching questions such as: Do people in different cultures think, feel, and act differently? How can we begin to understand the cultural variation in psychological processes, and what are the origins of this variation? In the last decade a number of psychologists have used empirical methods of psychology to address these questions. This course reviews and critically examines this literature. A main focus will be on some Asian countries and cultures, but we will cover different ethnic groups within the United States.

242233 文化心理学(文化と認知)

【到達目標】

- ・文化心理学(文化と認知について)の基本的知識を習得する。
- ・文化の違いがこころのどのレベルで生じるのかを分析する力を養う。
- ・文化心理学におけるさまざまな研究手法を理解し、データを読み解く力を養う。

【概要】 日常生活の中で、ふつうに考え、感じ、行動しながら、“心”は作られていく。本講義では、心の社会的構造に着目し、心と文化について実証研究から検討する。近年の文化心理学的研究の中では、自動処理過程やオンライン過程といった、認知実験研究の文化差が展開されている。西洋では、文化的認知様式として分析的思考が、東洋では、包括的思考がそれぞれ優位となっていることが指摘されてきている。最新の知見を学びながら、文化の中での“心”について理解することを目標とする。

242234 文化心理学(グローバル社会)

【到達目標】

- ・多様な違いをみせる文化の軸、地域、ジェンダー、人種、経済性、社会階級についての基礎的知識を身につける。
- ・さまざまな文化差がこころにどのように変化をもたらすのか、文化心理学におけるさまざまな研究手法から分析する力を養う。
- ・多文化の対立から、多文化共生を導くアイデアを身につける。

【概要】 多文化に出会う現代社会の中では、共生よりもその違いに関心が集まり、それが摩擦を生んでいくことになる。この講義では、こうした多文化社会における地域、ジェンダ

一、人種、経済性、社会階級における対立の様子を理解し、それらを生むプロセスについて心理学的に分析し、理解した上で、多文化共生を導くアイデアについて、発表、議論していく。

242235 多文化教育

【到達目標】

- ・多文化教育・多文化主義について、基礎知識を身につける。
- ・多文化教育や多文化主義が、多文化共生にどのように関わっているのかを理解する。

【概要】 日本、また多くの国々で、多様な文化の人々が共によりよく生きることのできる社会をめざす多文化共生が、課題となっている。本講義では、多文化主義、多文化教育とは何か、多文化主義・多文化教育はどのように発展し、どう受けとめられてきたのか、多文化共生社会の担い手としてふさわしい基礎知識を身につける。そして、文化の違う者同士が互いに適応し、自分たちが住む社会を共に作っていくために必要なことは何かを考える。

242236 日本語教育研究概論Ⅰ

【到達目標】

- ・日本語教育とはどのような分野であるのか具体的なイメージを身につける。
- ・日本語を客観的に捉えられる力を養う。
- ・社会の中で言語教育が果たしている役割、果たすべき役割を理解する。

【概要】 日本語教育について、関連領域も含めた広い視野から概観し、国内および海外のさまざまな学習者に対して行われる日本語教育の多様性を捉え、日本語教師となるために持つべき資質と能力についての見通しを持つことを目標とする。「日本語教育のための教員養成について」（文化庁、2000）に示された教育内容を踏まえ、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5領域から日本語教育の対象、環境、内容、方法等について考察する。

242237 日本語教育研究概論Ⅱ

【到達目標】

- ・日本語による説明能力を高める。
- ・日本語教育の多様性と関連していることに対する理解を深める。
- ・教室活動の準備や実践方法などを理解し、身につける。

【概要】 日本語教育について、関連領域も含めた広い視野から概観し、国内および海外のさまざまな学習者に対して行われる日本語教育の多様性を捉え、日本語教師となるために持つべき資質と能力についての見通しを持つことを目標とする。多様な日本語学習者の個々について理解するための観点、学習支援の基本である日本語説明能力、日本語教育能力、教室活動を中心に、日本語教師として必要となる知識・能力に重点をおいて考察する。

242238 日本語教育研究 I

【到達目標】

- ・日本語教育のニーズや学習者の動向について、社会の出来事と関連付けてとらえる視点を身につける。
- ・日本語教育の内容・方法について、社会的要因と学習者個人の要因の両面から考えることができる。
- ・日本語教育が育成すべき能力について、多角的な見方ができる。
- ・自身の日本語に関する知識・運用能力について内省し、課題を見つけることができる。

【概要】 日本語教育について、社会的行為としての言語教育という視点と、個人の認知活動としての言語習得という視点の両面からみることにより、言語教育を動的に捉える力を養う。この講義では、社会的視点を中心に取り上げ、外国語としての日本語教育 (JFL) と第二言語としての日本語教育 (JSL) の相違、各国の言語政策や言語教育政策と日本語教育の目標設定の関係を理解することによって、教室での実践事例を広く社会的文脈から分析的に捉える、また、コミュニケーション能力、社会文化能力など日本語教育が育成すべき能力について、諸理論を踏まえて考察する。

242239 日本語教育研究 II

【到達目標】

- ・日本語教育の内容と方法について、学習者特性や環境等の要因を考慮して考えることができる。
- ・日本語非母語話者とのコミュニケーション場面で必要となる配慮についての知識を得て、実践での様々な工夫を試みることができる。
- ・学習／教育に関する多様な理論や考え方を学び、自身の学習観、教育観を内省し、他者との相違を検討することができる。

【概要】 日本語教育について、社会的行為としての言語教育という視点と、個人の認知活動としての言語習得という視点の両面からみることにより、言語教育を動的に捉える力を養う。この講義では、学習者の認知や学習行動など、個々の言語習得における多様性や個別性について、認知心理学や教育心理学、異文化間教育学など、関連諸領域の研究にも触れつつ学んでいく。諸理論の日本語教育への応用事例を学ぶことによって、4年次の「日本語教育実習」につながる準備とする。

242240 多文化コミュニケーション・デザイン

【到達目標】

- ・コミュニケーションデザインに関する基礎知識を身につけること。
- ・ファシリテーションに関する基礎知識と基礎的实践力を得ること。

【概要】 日本、また多くの国々で多文化化が進む中、社会には様々な複雑な問題が存在している。社会生活に深くかかわる問題の解決には、利害や立場の異なる人々、文化的背景や言語的背景、アイデンティティが異なる人々が当事者として話し合い、協働することが大切である。そのために、人と人、人とモノとのあいだのコミュニケーションをデザインするという視点からのアプローチが求められている。本講義においては、コミュニケーションデザインに関する基礎知識を身につけた上で、実践力を養うために、ファシリテーションに関する基礎知識と基礎的实践力を得ることを目標とする。

242241 ことばと文化

【到達目標】

- ・文化とことばはどのように関連するのか、基礎的知識を体得する。
- ・言語の語彙体系や言語構造、コミュニケーション・パターンと文化の関係を理解する。
- ・言語と文化の関係について、言語間の相違点ならびに共通点（普遍性）から分析し、理解する。
- ・異言語および異文化に対する観察力・分析力を身につける。

【概要】 言語の体系（語彙体系など）は、その言語が用いられる社会の文化や習慣と深く関係している。また、表現様式やコミュニケーション・パターンは、社会的な価値観や対人関係のありよう、行動基準となる発想（いわゆる「ものの考え方」）の影響を色濃く受けている。ここでは、言語使用や言語表現のさまざまな事例をもとに、言語とその母語話者の文化的発想との相互関係について学び、異なる言語間に見られる共通性と個別性についても考察する。

242242 言語コミュニケーション能力の発達

【到達目標】

- ・言語コミュニケーション能力に関する主要な理論的枠組みについての知識を得る。
- ・言語コミュニケーション能力の発達について、認知や情動、社会性など人間の諸側面の発達や社会文化的環境の影響との関係から理解する。

【概要】 文法的に正しい文を生成する力、目的や場面状況に合わせて適切に談話や文章を構成する力、言語能力の不足やコミュニケーションに問題が生じたときにそれを修復するストラテジー能力など、言語を使用してコミュニケーションを円滑に進める際に必要とされる能力について、主だったモデルを学び、実際のコミュニケーション経験の内省や、第二言語でのコミュニケーションの事例などの考察等を通して、理解を深める。また、言語コミュニケーション能力の発達と認知や情動、社会性等、人間の諸側面の発達との関係を考察していく。

242243 言語の多様性と普遍性 A

【到達目標】

- ・言語データを分析し、背後にある構造や言語能力のしくみを考える基礎と分析能力を身につける。
- ・日本語、英語とは異なるタイプの言語に触れ、言語間の共通性や相違点に注目し、言語を相対化して見る視点を身につける。
- ・人間の言語能力の普遍的特徴が、どのように個別言語の言語現象に反映されているかを理解する。

【概要】 日本語・英語・その他の音声言語や手話言語には、非常に異なって見える現象の背後に共通のシステムを見出すことがある。そのような発見を通して、自然言語において基本要素を組み合わせて複雑な表現を作るしくみや、こどもが周囲の会話を手がかりに母語を獲得する上で必要となる生物学的な基盤と環境との関わりを考える思考法を身につける。履修者の多くにとって、自覚する間もなく習得した日本語、学ぶべき外国語とされている英語を、他の言語と並べて分析する体験を通して、自分が持つ枠組みを相対化して見る姿勢を身につける。

242244 言語の多様性と普遍性 B

【到達目標】

- ・言語の多様性が、人間という種の特性を考える上で、他の認知能力の研究では得がたい手がかりを与えてくれることを理解する。
- ・言語知識の中で、経験を通して学習されるとは考えられない部分について、(1) 仮説を立てて検証し、(2) その仮説が帰結として得られるようなさらに深い仮説を考え、検証するというプロセスにより、演繹的な深さを求める考え方を身につける。

【概要】 世界の言語には、語や形態素の組合せ方、格表示や一致現象の有無、語順やアクセント、省略の可否など様々な違いが見られる一方、全く親族関係のない言語間に同じ規則性が観察されることもある。20 世紀後半以降の言語研究は、個別言語の記述的妥当性を超え、世界の言語の多様性と普遍性に注目してその原因を追求している。このような言語研究の例に出会い、科学的思考を支える考え方を学ぶとともに、言語を通して人間を理解しようとする人間の営みを体験する。

242245 第二言語習得基礎論 A

【到達目標】

- ・第二言語習得の一般的なメカニズムに関する基本的な知識を習得する。
- ・第二言語習得の一般的なメカニズムを踏まえて第二言語の学習や教育について分析する力を養う。
- ・第二言語習得の一般的なメカニズムを踏まえて第二言語の学習や教育について考察する力を養う。

【概要】 本講義では第二言語習得に関する主要な理論や仮説を概観しながら、学習者に共

通した第二言語習得の一般的なメカニズムについて理論的に解説する。これらの基礎的な知識の理解をもとに、第二言語学習や第二言語教育の現状を分析する能力を高める活動を実施する。さらに、この分析能力を活用して、第二言語習得の一般的なメカニズムの観点から、第二言語学習のさらなる効率化や既存の第二言語教育の改善のための考察ができるようになることを目指す。

242246 第二言語習得基礎論 B

【到達目標】

- ・第二言語習得の個人差を生じさせる様々な要因に関する、基本的な知識を習得する。
- ・第二言語習得の個人差を生じさせる様々な要因を踏まえて、第二言語の学習や教育について分析する力を養う。
- ・第二言語の習得の個人差を生じさせる様々な要因を踏まえて、第二言語の学習や教育について考察する力を養う。

【概要】 第二言語習得には、学習者に共通した一般的なメカニズムと共に学習者ごとに異なる個人差を引き起こすメカニズムがある。本講義では、後者のメカニズムに関連するさまざまな要因を概観しながら、第二言語習得に見られる個人差について理論的に詳説する。これらの知識の理解を踏まえ、各種の事例を使って第二言語学習や第二言語教育の現状を分析する能力を養う。最終的には、第二言語習得の個人差を引き起こすメカニズムの観点から、第二言語学習の効率化や第二言語教育の改善のための方法が提案できるようになることを目指す。

242247 社会言語学 A

【到達目標】

- ・日常的にげなく使っている「ことば」に対する問題意識を持つ姿勢を身につける。
- ・「ことば」の多様性を客観的に捉え、探究する力を培う。

【概要】 社会生活の中での言語の諸相とそのとらえ方について、主に日本語の具体事例を取り上げながら学ばせる。日本語の地理的変異に着目し、貴重な言語資料である全国に広がる様々な語の分布から、ことばの生成・発展・衰滅のプロセスをたどっていく。小方言から中核方言への統合現象や衰退する伝統方言に代わる新しい方言の発生・浸透などの実態もふまえ、共通語との接触による方言の変容、それに伴う方言の運用や意識の問題についても考えていく。

242248 社会言語学 B

【到達目標】

- ・日常生活における「ことば」の実態や変容を理解する。
- ・社会や文化とのかかわりの中で、「ことば」が運用される様子を客観的に捉える力を養う。

【概要】 社会生活の中での言語の諸相とそのとらえ方について、主に日本語の具体事例を取り上げながら学ばせる。日本語の変種を年齢差、性差、場面差などの多角的な視点からとらえ、表現形式や談話構造のバラエティを探っていく。ことばの規範、アイデンティティとことばとの関係を言語意識の側面からとらえ、コードスイッチング、コミュニケーションストラテジー、敬語選択などの言語運用に具現されていく状況を、背後で作用している様々な社会文化的要因を視野に入れながら考えていく。

242249 日本語学（表記・語彙）A

【到達目標】

- ・ 普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考える力を養う。
- ・ 表記・語彙の分野について、共時的通時的観点から捉える力を身につける。

【概要】 我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。特に現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるように導く。本講義では、表記・語彙の分野のトピックを中心に扱う。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。

242250 日本語学（表記・語彙）B

【到達目標】

- ・ 普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考える力を身につける。
- ・ 表記・語彙の分野について、応用分野も視野に入れながら、自ら考察する力を身につける。

【概要】 我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、表記・語彙の分野のトピックを中心に扱う。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。

242251 日本語学（文法・談話）A

【到達目標】

- ・ 普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考える力を身につける。
- ・ 文法・談話の分野について、共時的通時的観点から捉える力を身につける。

【概要】 我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文法・談話の分野のトピックを扱う。文-文法のみでな

く、談話・文章の文法も視野に入れて考察する。共時的観点のみならず通時的観点からの考察も重視し、研究史を踏まえた見方ができるようにする。

242252 日本語学（文法・談話）B

【到達目標】

- ・普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考える力を身につける。
- ・文法・談話の分野について、応用分野も視野に入れながら、自ら考察する力を身につける。

【概要】 我々が普段使用している日本語を内省し、その仕組みについて深く考えることを目標とする。現代日本語を対象に、日本語学で議論されているトピックについて講ずる。日本語を観察し、その性質を明らかにする過程を示すことで、学生が自ら研究を進めることができるよう導く。本講義では、主に文法・談話の分野のトピックを扱う。文-文法のみでなく、談話・文章の文法も視野に入れて考察する。対照言語学的視点や、国語教育・日本語教育・コンピュータによる日本語処理等への応用も視野に入れた分析を行う。

■ 基盤演習

242301 1年次演習（コミュニケーション）

【到達目標】

- ・コミュニケーション研究の概説書等を題材として、要約、発表、ディスカッションなどの能力を身につける。
- ・適切な文献・資料・情報の検索方法を身につける。
- ・主体的な研究につながるレポートの決まりごとについて知り、レポート執筆の能力を身につける。

【概要】 学生は「1年次演習（コミュニケーション）」で、演習という授業形式に初めて参加する。演習では、教員だけでなく、受講生も主体的に、授業の内容を構成していく。高校までの、どちらかというが無批判的な吸収一方の学習スタイルから、批判的で主体的・探索的な学習スタイルへ変わる訓練をする。本演習では、コミュニケーション学への入り口として、適切な文献・資料・情報の検索方法を身につけ、関連文献や資料を読み、内容を吟味し、発表し、討論する。主体的学習の方法を学ぶ過程で、自分の意見をまとめ、レポートを執筆し、プレゼンテーション能力も養う。

242302 2年次演習（コミュニケーション）

【到達目標】

- ・コミュニケーション研究の基本概念、専門用語を理解する。
- ・文献検索を行い、学術文献を読解し、正確に要約する力を身につける。
- ・論旨を発表し、ディスカッションするスキルを身につける。

【概要】 「2年次演習（コミュニケーション）」では、コミュニケーション学について「1年次演習（コミュニケーション）」よりも深い学習と議論ができるようにする。そこで2つの工夫をしている。一つは、コミュニケーションのさまざまな分野に視野を広げる目的で、「2年次演習（コミュニケーション）」では学生に少し自分の中心的な関心分野を離れて他の分野について勉強することを奨励する。もう一つは、研究や学習のために必要となった際、困らないように、コミュニケーションに関する英語の文献を教材にするという工夫である。研究分野についての視野とともに、海外での研究にまで視野を広げることができる。学術的な文献を読解し、要約したうえで論旨を発表しディスカッションする能力を身につける。

242303 コミュニケーション研究法入門

【到達目標】

- ・質問紙調査、実験、内容分析、質的研究、談話分析を、講義と実習を交えて習得する。
- ・卒論作成に向けて基礎的な研究方法を習得する。
- ・前期で学んだ「コミュニケーション統計法1」を前提に、基本的なデータ分析方法を習得する。

【概要】 コミュニケーション研究は学際的であり、社会学や心理学などさまざまな学問分野で発達してきた多様な研究方法が用いられている。本講義ではその中で最も重要な5つ（質問紙調査、実験、内容分析、質的研究、談話分析）の研究方法を、講義と実習を交えて学んでいく。また、「コミュニケーション統計法1」を前提に、基本的なデータ分析方法も学ぶ。この授業を通して、各自の興味に合わせて、どのような方法が可能であるかを知り、3年次に選択する上級コースの「コミュニケーション研究法実習」、「社会調査法実習」、「多変量解析」につなげ、さらには卒業研究へと結びつけていく。週2コマの授業。

242304 アプリ作成入門

【到達目標】

- ・プログラムで成り立つソフトウェアを操作して行われる、人間とコンピュータとのコミュニケーションの原理を演習を交えて理解する。
- ・文法の詳細にとらわれることなく、論理的な思考や解決策を明確に記述する能力を身につける。
- ・自分でプログラムを制作して発表する楽しさを経験することができる。

【概要】 前提知識のない初心者でも、プログラミングの基本と楽しさを学ぶことができる演習科目である。GUIプログラム開発環境を用いて、プログラミングに触れたことがない初心者でも文法エラーなどに悩まされることなく、プログラムを制作する。アルゴリズムとデータ構造の初歩、フローチャート、関数、テストの方法を、講師や受講生仲間と協力して、ゲームを制作して発表する過程を楽しみながら学ぶ。

242305 Web プログラミング I

【到達目標】

- ・ JavaScript を用いたプログラミングの方法を習得する。
- ・ アルゴリズムとデータ構造を理解する。
- ・ Web 技術 (HTML と CSS) の基本を習得する。

【概要】 初心者でも開発しやすいプラットフォームなどを利用して、JavaScript を用いた簡単なプログラミングを制作できるようになる演習科目である。自分でコードを書く練習をしながら、分岐と反復を含んだ基本的なアルゴリズムのパターンと基本的なデータ構造を理解する。また、テストの仕方やデバッグの方法も学ぶ。JavaScript を用いた Web プログラミングで必要となる Web 技術である HTML と CSS の基本も理解する。

242306 Web プログラミング II

【到達目標】

- ・ JavaScript のプログラム制作ができる。
- ・ オブジェクト指向プログラミングを理解する。
- ・ 計算機科学の考え方を身につける。
- ・ Web 技術 (HTML と CSS) の資格試験に合格することができる。

【概要】 「Web プログラミング I」と合わせて、自分が必要とする Web プログラミングを制作できるようになる演習科目である。オブジェクト指向言語としての JavaScript の文法を理解することを目指す。JavaScript を使って、論理的な思考やアルゴリズム考案が身につくような例題を演習する。実践的な課題や練習を多く経験して技術を習得する。自作のプログラムが動く楽しさを経験し、Web 技術の資格試験合格にも挑戦してもらいたい。

242307 オーラルコミュニケーションスキルズ

【到達目標】

- ・ コミュニケーションを実現するスキルとは何かを理解する。
- ・ インパクトのあるプレゼンテーションを分析し、長所を理解する。
- ・ 自らのコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を身につける。

【概要】 コミュニケーションスキルとは、ことばの熟達だけでなく、伝える相手の立場や特徴といった背景の理解、分かりやすい資料の作成、相手の心情に訴える表現、発表技能の習得といった、総合的な力を意味する。ここでは、印象的なスピーチ、インパクトのあるプレゼンテーションの分析を通して、その長所を理解する。実践的なコミュニケーション能力を養っていく演習を行う。

242308 言語情報処理 I

【到達目標】

- ・コンピュータで日本語表現を扱う基本的な技術を取得する。
- ・日本語の性質を明らかにするために、コンピュータをどのように活用することが可能であるか考える力を養う。
- ・データマイニングの基礎的な考え方を身につける。

【概要】 日本語（一般に言語）表現をコンピュータで扱う技能や、データマイニングについて、その基礎となる考え方を学んでゆく。実際にコンピュータに向かいつつ、基礎的な技術を取得することをめざす。更には、授業時間外の実習によって、より深い理解をはかる。プログラミング言語（Perl や Python 等）によるプログラミングや、既存のツール（KHCoder 等）による実習を伴う。

242309 言語情報処理 II

【到達目標】

- ・コンピュータで日本語表現を扱う応用的な技術を取得する。
- ・日本語の性質を明らかにするために、コンピュータをどのように活用することが可能であるか、自ら探る態度を身につける。
- ・データマイニングの応用的な技術を身につける。

【概要】 日本語（一般に言語）表現をコンピュータで扱う技能とともに、その基礎となる考え方を学んでゆく。実際にコンピュータに向かいつつ、その応用的な技術・考え方を取得することをめざす。更に授業時間外の実習によって、深い理解をはかる。言語表現・情報をコンピュータによって処理する方法を総合的に把握するとともに、先人が見出してきたものを習得するだけでなく、コンピュータの活用の可能性を自ら探る態度を身につけることを目標とする。

■ 発展演習

242401 3年次演習（コミュニケーション） I

【到達目標】

- ・コミュニケーション研究の専門的知識を身につける。
- ・コミュニケーション研究に関する文献を講読し、理解する。
- ・コミュニケーション研究法についてのスキルを身につける。

【概要】 「3年次演習（コミュニケーション）」では、学生が自らの関心に基づいて演習担当者を選び、その指導のもとに専門領域の知見を増やしながら、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していく。演習の形式は「2年次演習（コミュニケーション）」までと変わらないが、内容はより専門的で、読む文

献も学術雑誌の論文などが中心となる。本演習では文献研究によって問題意識を深めつつ、自分の関心に合ったテーマを探していくことが中心となる。

242402 3年次演習（コミュニケーション）Ⅱ

【到達目標】

- ・具体的な研究テーマに関連する学術論文を講読し、理解する。
- ・具体的に研究を遂行するために必要な方法を身につける。
- ・発表とディスカッションを通じて論理的、分析的思考法を身につける。

【概要】 「3年次演習（コミュニケーション）」では、学生が自らの関心に基づいて演習担当者を選び、その指導のもとに専門領域の知見を増やしながら、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していく。演習の形式は「2年次演習（コミュニケーション）」までと変わらないが、内容はより専門的で、読む文献も学術雑誌の論文などが中心となる。本演習では「3年次演習（コミュニケーション）Ⅰ」よりも具体的に研究を遂行するために必要な方法や概念について議論を深め、4年次に行う卒業研究の準備を行う。

242403 4年次演習（コミュニケーション）Ⅰ

【到達目標】

- ・卒業研究を遂行するための専門知識を身につける。
- ・卒業研究のデータ収集とデータ分析の具体的方法を習得する。

【概要】 「4年次演習（コミュニケーション）」では、個々の学生の卒業研究と連動させながら、演習が行われる。卒業研究とは、より専門的な知識をもとに、各自のテーマに沿った先行研究のレビューや研究の問題意識の明確化、仮説の設定、実証データの収集、分析、結果の考察、論文執筆にいたる一連の課程である。それらを担当教員の支援を受けながら遂行していく。多くの授業時間外の学習や努力が学生に要求される。

242404 4年次演習（コミュニケーション）Ⅱ

【到達目標】

- ・学術論文の論理的構成と型式を理解し、執筆の方法を身につける。
- ・研究成果のまとめとプレゼンテーションの技法を身につける。

【概要】 「4年次演習（コミュニケーション）」では、個々の学生の卒業研究と連動させながら、演習が行われる。「4年次演習（コミュニケーション）Ⅱ」の期間に、実証データの収集の後、分析、結果の考察、論文執筆、繰り返し加筆修正を行うという一連の過程が行われる。これらを担当教員の支援を受けながら遂行していく。多くの授業時間外の学習や努力が学生に要求される。学術論文の論理的構成と型式を理解し、研究成果をまとめ、説得的にプレゼンテーションする表現技法も身につける。

242405 コミュニケーション研究法実習（実験法）

【到達目標】

- ・人間のコミュニケーションを研究するための方法として、実験法の概要と特徴を理解する。
- ・検証可能な仮説の設定、仮説を検証するための検定方法と、実施可能性を視野にいたれた現実的な実験計画の立案ができる。
- ・実験の実施とデータの収集、データ集計・クリーニングから、分散分析や多変量解析を含む統計検定とその解釈をすることができる。

【概要】 人間のコミュニケーションを実証的に研究する上で、仮説を検証するためには最も強力とも言える研究方法である、実験法について実習を通して学ぶ。人間を実験対象（被験者）にする実験のパイオニアである、心理学の領域において蓄積されてきた実験の手法を、研究目的の設定、検証可能な操作的仮説への落としこみ、実験計画の立案、実施、データの整理、統計分析、考察と結論、報告書の作成まで全手順を複数回体験しながら、分析方法について、単純な差の検定から分散分析、多重比較、重回帰分析、因子分析を実験方法と対にして学ぶ。

242406 コミュニケーション研究法実習（内容分析）

【到達目標】

- ・実習を通じて内容分析を習得する。
- ・実習を通じて基本的な量的データの解析方法を習得する。

【概要】 量的内容分析の方法とそれによって得られたデータの解析方法について、実習を交えて解説する。内容分析とは何か、内容分析にできることとできないこと、内容分析の一般的手続き（サンプルの選び方、コーディングシートの作り方・作成上の注意事項、データの集計方法、データの分析方法、結果のまとめ方）などを、質問紙調査との比較を通じながら詳しく学んでいく。内容分析の基本的な解析方法として、単純集計、クロス集計、 χ^2 検定、相関係数、t 検定などを学ぶ。

242407 コミュニケーション研究法実習（質的研究）

【到達目標】

- ・質的調査の概要と特徴についての理解を深める。
- ・質的調査の多様な方法と分析法について、その違いと特性、目的に応じた手法の選択ができる。
- ・調査計画をたてる際に実行可能性（調査の対象との関係性の構築、匿名性の確保など）を考慮に入れた計画の立案ができる。

【概要】 さまざまな質的データの収集方法（インタビュー＝構造化面接・焦点面接または

半構造化面接・非構造化面接、観察、参与観察など)や分析方法について解説する。データを整理、分析し、まとめる作業を行う。テープ起こし、写真等の映像データを、正確に整理し、調査テーマに則して分析する。既存の調査データや先行研究などを活用し、各自の関心を生かしたフィールドワークも織り込みながら、卒業論文で実際にこれらの方法を応用した調査研究を行うことができるよう、事例研究、観察、参与観察などの手法を習得する。

242408 社会調査法実習（質問紙調査）Ⅰ

【到達目標】

- ・社会調査の目的と方法に関する専門知識を習得する。
- ・社会調査を行う上で必要なスキルのうち、先行研究の整理、調査仮説の構築、質問紙の作成、実査の準備、データ入力のコーディングを体得する。
- ・質問紙調査の実査に関わる手続きを体得する。

【概要】 この授業では、社会調査に関する講義を通して、社会調査の目的と方法について理解する。そうした知識を踏まえ、先行研究の整理、調査の企画、調査仮説の構築、質問紙の作成、サンプリングなどの実査の準備、データ入力のコーディングを、グループを単位とした実習活動によって体得する。さらに、調査の実施に関わるスキル、すなわち調査協力者への協力依頼、調査趣旨の説明、同意の取得、質問紙の配布と回収についても実習を通じて体得する。

242409 社会調査法実習（質問紙調査）Ⅱ

【到達目標】

- ・社会調査のデータ分析と報告書執筆に必要な知識を習得する。
- ・データ入力とデータ・クリーニングのスキルを体得する。
- ・統計ソフト SPSS を用いてデータの加工とデータの分析を行うスキルを体得する。
- ・社会調査の結果を報告書にまとめるスキルを体得する。

【概要】 この授業では、量的なデータを扱う社会調査においてなぜデータの統計分析が必要であるのか、そのためにはどのようなスキルが必要であるか、調査結果を報告書にまとめる際に必要となる形式的な決まり事についての知識を講義を通して学ぶ。また、実習を通して、データ入力とデータ・クリーニングのスキル、統計ソフト SPSS を用いてのデータの加工と分析に必要なスキルを実習を通して体得する。さらに、グループ単位で調査結果を報告書にまとめる。

242410 多変量解析

【到達目標】

- ・調査や実験データの主な分析方法を理解する。
- ・統計ソフト SPSS を用いて実際のデータ分析を行いながら、主要な多変量解析法を駆使で

きることを目的とする。

【概要】 この実習では、重回帰分析を中心に多変量解析を用いた調査データの分析法を学ぶ。最初に基本的な分析方法（クロス集計、カイ二乗検定、相関係数、t検定、一元配置分散分析など）の復習や調整変数、媒介変数などの解説をしたのち、重回帰分析、パス解析、ロジスティック回帰分析、二元配置分散分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析などを取り上げる。それぞれの分析方法の基本的な解説を加えながら、SPSSを用いて実際に調査データを分析しながら、主要な多変量解析法の習得を目指す。

■実験・実習

242501 日本語教育実習

【到達目標】

- ・日本語教育の実践を行う教育機関・教室・学習者について理解し、教育実践に関わるための必要な準備を行うことができる。
- ・学習活動の目的を理解し、自分の役割を明確に把握して主体的に行動することができる。
- ・実践を分析的に振り返り、改善の方法を考えることができる。
- ・日本語教育の目的、日本語教師の役割や求められる資質・能力について、自分の経験と他者との共有を通してより深い理解を得る。

【概要】 日本語学習支援を行うために必要な「事前準備」「実践」「振り返り（実践に関する評価）」という教育の全体を体験する。

授業ではコースデザイン、授業の設計、教材作成、評価など実践のための重要なポイントの理解と整理を行い、また実践で得た知見や疑問等についてのフィードバックを行う。さらに、実践の評価・改善のために、各自が実践の目標とその評価の観点・方法の設定、評価のためのデータ収集と記録という各ステップを踏んで、振り返りを行う。そのうえで、実習報告会での口頭発表と報告書作成を通して、実践とその振り返りを全員で共有し、経験と得られた知見の共有と、理解の深化を図る。